

単元名	1. わたしたちの国土 (オリエンテーション)			教科書の ページ	上 p. 6～7
配当時数	1 時間	活動時期	4 月	学習指導要 領の内容	(1) アイ

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)オリエンテーション				
地球の写真や地球儀を見て、調べたいと思ったことを話し合しましょう。 p. 6～7	1	①地球の写真や地球儀をもとに、気づいたことや調べたいと思ったことを発表する。 <気づいたこと> - 地球の中の日本は小さい。 - 日本は細長い。 - 日本の西には、広い大陸が続いているように見える。 - この写真の裏側にある、大陸や海はどうなっているのかな。 <調べたいと思ったこと> - 世界の大陸や海洋はどうなっているのか。 - 日本のまわりにはどのような国があるのか。 - 人はどのあたりに住んでいるのか。 - 日本の国土に住む人たちは、どのように暮らしをしているのか。	◆地球の衛星写真を見て、気づいたことを自由に発言させる。 ◆地球儀と地図の実物を見て、確認させる。 ◆地球儀と地図のそれぞれに描かれている具体的な内容については追究せず、見た目の比較に留める。	[思判表] 発言内容から、「我が国の国土の様子について、問いを見出しているか」を評価する。
		めあて 日本は、地球のどこにあり、人々のくらしは、どのようになっているのでしょうか。		

小単元名	1. 世界の中の国土			教科書のページ	上 p.8～15
配当時数	4 時間	活動時期	4 月	学習指導要領の内容	(1) ア-(7) (ウ), イ-(7)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで我が国の国土の様子をとらえ、その特色を考え、表現することを通して、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、我が国の国土の様子を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解している。
	思考・判断・表現	①世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、問いを見出し、我が国の国土の様子について考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①我が国の国土の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)世界の中の日本				
・つかむ 地球の様子や地図を見て話し合い、世界の中の日本について学習問題をつくりましょう。 p. 8～9	1	①地球儀をながめて、疑問に思ったことを発言する。 ②p. 8「地球儀の見方・使い方」をもとに地球儀の使い方を学習する。 ・緯度、経度による位置の見方、距離・方位の調べ方 ・地図と地球儀の違い ③p. 8～9 の地図などで世界の主な大陸や海洋を確認する。 ・六つの大陸と三つの海洋の位置と名称。 ④地図や地球儀で日本の位置を確認し、世界の広がりとの関係について気づいたことや考えたことなどを発表し、それをもとに学習問題をつくる。 ・日本はユーラシア大陸の東にあって、太平洋の西にある。 ・日本のほかにどのような国々があるのかな。	◆p. 8「地球儀の見方・使い方」をもとに、地球儀の使い方を指導する。 ◆大陸や海洋の位置や形、大きさなどに着目し、地球上の大陸や海洋の広がりをとらえさせたい。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本の地理的位置や国土の構成に着目して、問いを見出しているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 世界から見た日本の国土は、どこにあり、どのように広がっているのでしょうか。		

		⑤学習計画を立てる。 ・世界の国々と日本 ・日本の国土の広がり ・日本の領土		
(2)世界の国々と日本の位置		★他教科との関連:外国語		
・調べる 世界の主な国々と日本の位置や国旗について調べてみましょう。 p. 10～11	1	①p. 10～11 の地図をもとに、世界の国の場所や国旗、その国の様子、日本との位置関係などについて地図帳や地球儀で調べながら、線をつないだり、国名を空欄に書き入れたりする。(p. 10「やってみよう」を参照) ②線で結んだり、書き込んだりした地図をもとに、気づいたことや思ったことを話し合う。 ・大陸だけでなく島にも国がある。 ・国旗は似ているものもあるが、それぞれ違って、その国の人々の歴史や願いが込められているものもある。 世界の国々は、多様であり、それぞれ国旗が存在する。	◆p. 10「やってみよう」の指示に従って作業をさせる。写真にも着目させ、それぞれの国の風土や文化の特色にも興味をもたせる。 ◆調べた国が、日本と比べ大きいのか小さいか、日本とどのような位置関係にあるか、どの方位にあるかなどについてもできるだけ調べさせる。 ◆国旗については、p. 10の「ことば」をもとに指導し、各国の国旗を確認する。	【知技①】 教科書への書き込みやノートの記事内容から、「必要な情報を集め、読み取り、世界の主な国々と日本の位置関係や、世界の国々には国旗があることを理解しているか」を評価する。
(3)多くの島からなる日本				
・調べる 日本の国土は、どのような特色があるのでしょうか。 p. 12～13	1	①p. 12～13 の地図や写真などから、日本の国の広がりや日本のまわりの国々を調べ、気づいたことを話し合う。 ・国土は、四つの大きな島と沖縄島や択捉島などの6,800以上の多くの島でできている。 ・長い海岸線をもつ。 ・日本の東西南北のはしは、南鳥島、与那国島、沖ノ鳥島、択捉島で、約3000kmの距離がある。 ・日本は、海をへだてて外国と接している。 ②国土の広がりについて、話し合う。 ・まわりを海に囲まれている島国。 ・多くの島が南北に広がる国。	◆東西南北の端となる島に着目し、距離を測ったり、隣接する海洋・国などを地図から読み取ったりする活動を通して、島国としての国土の広がりの特徴をとらえさせたい。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本の周辺や海洋に囲まれ多数の島からなる日本の国土の構成について考え表現しているか」を評価する。

		日本の国土は、南鳥島、与那国島、沖ノ鳥島、択捉島を東西南北の端とし、海に囲まれた大小の島々で構成され、海をへだてて大韓民国や中華人民共和国、ロシア連邦などと隣り合っている。		
(4)領土をめぐる問題				
・調べる 日本の領土のはんいは、どのようになっているのでしょうか。 p. 14	1/2	①p. 14～15 の地図や写真から、日本の領土・領海の範囲を確認する。 ・日本は、多くの島からなるため、領土よりも領海の方が広い。 ・西之島が拡大して領海が広がった。 ②p. 14～15 の地図や写真、本文から領土の範囲をめぐる問題について理解する。 ・北方領土は、日本固有の領土である。 ・竹島は、日本固有の領土であるが、韓国が不法に占領しているため、日本は抗議を続けている。 ・尖閣諸島は、日本固有の領土である。 日本は、海に囲まれた島国であるため、広い領海をもっている。また周辺国との領土をめぐる問題がある。	◆領土という「ことば」をしっかりと確認したのち、日本には領土をめぐる問題があることに気づかせたい。ただし、5年生の段階ではその解決策を考え、話し合うなどの活動には深入りせず、概要や位置等の確認に留める。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の領土の範囲について理解しているか」を評価する。
(4)表にまとめる				
・まとめる 日本の国土の特色について、まとめてみましょう。 p. 15	1/2	①これまでに調べたことを、表にまとめることを通して、学習をふり返り、そこからわかる日本の国土の特色についてまとめる。 ・日本は、ユーラシア大陸の東、太平洋の西にある。 ・日本は、アメリカ合衆国やフランスなどと同	◆調べたことと、児童が考える日本の特色が混同しないように、整理させる。	[知技②] ノートの記述内容や作成した表の内容から、「日本の国土の地理的位置や構成、領土の範囲などの日本の国土の様子について理解しているか」を評価する。

		じくらの緯度にある。 ・日本は，大韓民国や中華人民共和国，ロシア連邦などと隣り合っている。 ・日本は，海に囲まれ多くの島からなる。 ・広い領海をもっている。 日本は，北半球およびユーラシア大陸の東に位置し，大韓民国，中華人民共和国，ロシア連邦などと隣り合っており，海に囲まれた大小の島々から構成され，広い領海をもつ島国である。		
--	--	---	--	--

小単元名	2. 国土の地形の特色			教科書の ページ	上 p. 16～21
配当時数	3 時間	活動時期	4 月	学習指導要 領の内容	(1) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで国土の地形の様子をとらえ、国土の地形の特色を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。			
小単元の 観点別 評価規準	知識・技能	①国土の地形などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の地形の様子を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、国土の地形の概要を理解している。			
	思考・判断・表現	①国土の地形に着目して、問いを見出し、国土の地形の様子について考え表現している。			
	主体的に学習に取り組む態度	①我が国の国土の地形について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。			

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)空から国土をながめてみよう				
・つかむ 高い空から日本を見て、日本の地形について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p. 16～17	1	①p. 16～17 の写真をもとに日本の地形の特色について気づいたことを話し合い、学習問題をつくる。 ・山の上の方まで人が住んでいる土地もある。 ・山もあれば平らな土地もある。 ・空から見る様子には、場所によって違いがある。 学習問題 国土の地形には、どのような特色があるのでしょうか。 ②学習計画を立てる。 ・山地や平地など、国土の地形の様子や広がり。 ・川や湖の様子や広がり。	◆景観写真をじっくり見せ、山地、平地、川、海岸、火山などの地形に関する事象に着目させる。 ◆写真にある河川にも着目させておく。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「地形に関する事象に着目して、問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
(2)国土のさまざまな地形				
・調べる 山地や平地の特色や広がりはどうになっているのでしょうか。 p. 18～19	1	①p. 19の資料[6]の地図を読み取る活動を通して、国土の山地や平地について気づいたことを発表する。 ・山脈、高地、平野などさまざまな地形がある。		[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、地理的な位置や広がりから国土の地形の様子について理解

		②p. 18 の資料[2]をもとに さまざまな地形の種類 と資料[1], [3], [4]の写 真を関連付け, その特 徴を読み取る。 ・飛騨山脈は山が連な っている。 ・松本盆地のまわりには 山が見える。 ・庄内平野には最上川が 流れ, 遠くに山が見え る。 ③p. 19 の資料[5], [6], [7] をもとに, 国土の地形 の特色をまとめる。 ・山地や山脈と呼ばれる 地形は, 四つの島の主 に中央にある。 ・火山も多い。 ・国土の 4 分の 3 は山地 で, 平地が少ない。 日本の国土は, 山地が 多く, 火山も多い。山 地は南北に背骨のよ うに連なり, 平地は少 ない。	◆資料[2]で地形の 種類, 呼び方, そ の特色を理解さ せる。それを視 点として, もう 一度資料[6]を見 せ, それぞれの 特徴的な地形 が, 国土のどの あたりにあるか 読み取らせる。 ◆地図帳でも確認 させ, そこから わかったことを 発表させる。	しているか」を評 価する。
--	--	--	--	--------------------------

(3) 日本の川や湖の特色

・調べる 日本の川や湖は, どのような特色があるの でしょうか。 p. 20	1/2	①p. 20 資料[1], [2], [3]や 地図帳を使い, 児童に とって身近な河川の上 流や下流 (河口含む), 湖について確認する。 ・河川の上流は山地で, 下流になると平野を流 れている。 ・山地や平地に湖が見ら れる。 ②p. 20 資料[3]と[5], [6] を関連付け, 日本の川 と湖の特色をまとめ る。 ・日本の川は, すごく急 で短いということが, 資料[5]からわかる。 ・日本でいちばん大きい 湖は琵琶湖である。 日本の川は, 山地から 平地に向かって流れ, 外国に比べ短く流れ が急である。また日本 には大小さまざまな 湖がある。	◆児童にとって身 近な河川を選択 し, 上流や下流 を地図帳で確認 させる。 ◆山地や平野との 関係にも着目さ せる。 ◆湖についても着 目させる。	[思判表①] ノートの記述内容 や発言内容から, 「山地から平地に 流れる川や湖の位 置や広がりについ て考え表現してい るか」を評価する。
--	-----	---	---	---

(3) 白地図にまとめる				
・まとめる 国土の地形の特色について、まとめてみましょう。 p. 21	1/2	①p. 21 の白地図を完成させ、p. 19 の資料⑥や地図帳と併せて、特徴的な地形とその場所などを当てるクイズを出し合う。 ＜クイズの例＞ ・「日高山脈に水源があって十勝平野を流れている川は何。」→「十勝川です。」 ・「琵琶湖から流れ出ている川は何川で、何という平野を流れている。」→「淀川で、大阪平野を流れています。」 ②国土の地形の特色についての学習をふり返り、感想と自分の考えを文章に表現する。 日本の国土は、平野が少なく、山地が多く、火山が多い。川は山地から平地に向かって流れ、短く急である。	◆地形の名前を使うことを意識させながら、クイズの問題や答えを言わせる。座席の隣どうしぐらいの人数（2，3 名一組）で行う。 ◆調べたことを「ことば」も生かしてまとめさせる。	【知技②】 白地図やクイズ，まとめた文章から「調べたことをまとめて，国土の地形の特色について理解しているか」を評価する。

小単元名	3. 低い土地の暮らし			教科書のページ	上 p. 22～31
配当時数	5 時間	活動時期	5 月	学習指導要領の内容	(1) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで低い土地の自然などの様子や低い土地の人々の生活をとらえ、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①国土の地形などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や低い土地の人々の生活を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、低い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。
	思考・判断・表現	①国土の地形などに着目して、問いを見出し、国土の自然などの様子や低い土地の人々の生活について考え表現している。 ②我が国の位置や地形の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、低い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①低い土地の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1) 堤防に囲まれた土地				
・つかむ 海津市の土地の様子や、人々の生活について考え、学習問題をつくりましょう。 p. 22～23	1	①海津市の航空写真を見て、土地の様子を話し合う。 ・三つの大きな川に挟まれている土地です。そこは平らです。 ・畑か田んぼのようなものが見えるが何を育てているのだろう。 ②土地の高さの地図の0 mよりも低いところに色をぬって海津市の土地の高さを調べる。 ・市の半分以上が0 mよりも低いけれど、ここに人が住めるのかな。 ・低い土地ならではの暮らしの工夫はあるのかな。 ③学習問題をつくる。 ・まわりに大きな川が三本も流れていて、洪水にならないのかな。	◆航空写真と土地の高さの地図を比較させて、地形の様子を読み取らせる。 ◆地図の0 mよりも低いところに色をぬって、土地の高さを確かめさせる。 ◆話し合っ出てきた疑問点から、学習問題をつくるように助言する。	[思判表①] ノートの記述内容から、「海津市の地形などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。
		学習問題 大きな川に囲まれた海津市に住む人々の暮らしや産業には、どのようなふうがあるのでしょ		

(2)学習の進め方				
・学習問題をつくり，学習の進め方を確認しよう。 p. 24～25	1	①小単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。 ②各学習過程には，「ふり返ろう」があることも確認する。 <調べること> ・水害からくらしを守るくふう。 ・低い土地での水を生かしたくらしや産業のくふう。 <調べ方> ・教科書を使って調べる。 ・教科書以外で調べる。（インターネット，市のホームページ，図書館，地図帳など） <まとめ方> ・調べてわかったこと，疑問に対する答えをノートにまとめる。 ・わかった事実をもとに，考えたことをノートに書き分ける。	◆問題解決的な学習の進め方で学ばせる。 ◆調べること，調べ方については，共通理解ができるようによく話し合う。 ◆まとめ方については，学級の実態などによって，ノート以外の方法も可能である。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から，「予想や学習計画を立て，学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
(3)水害とたたかってきた人々				
・調べる 輪中に住む人々は，水害から生活をどのように守ってきたのでしょうか。 p. 26～27	1	①資料①と資料③や，p. 22 の航空写真を比べて，昔の川の流れがどのように変化したのか，わかったことを話し合う。 ・昔は川が入り組んでいて，輪中がたくさんあった。 ②歴史民俗資料館の服部さんの話を読み，どのようにして川がまっすぐになり，輪中がまとまったのかを話し合う。 ・明治時代に，デレーケが川の流れを分けることに成功した。 ③資料⑤を読み取ってわかったことを話し合う。 ・1900年の三川分流工事で以降は，大きな水害の発生件数は大幅に減った。	◆河川改修工事の歴史について，薩摩藩やデレーケなど，さまざまな歴史的な流れがあつて，今のような川の流れになったことをとらえさせる。 ◆歴史的な見方・考え方，地域の人々の相互協力などの視点から水害を減らすための努力について考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から，「必要な情報を集め，読み取り，海津市の洪水の被害が少なくなってきたことや現在も水害への意識をもって訓練をしていることについて理解しているか」を評価する。

		・しかし、水害がゼロになったわけではない。 ・今でも水害に備えて水防演習をしたり、水防倉庫を備えたりするなど水害への準備をしている。 海津市には、もともと川が入り組んで輪中が多くあったが、明治時代に、ヨハネス・デレーケが川の流れを完全に分け、水害の発生件数は大幅に減った。今でも水害に備えて地域の人々は協力して水防演習を行い、水害に備えている。		
--	--	---	--	--

(4) 豊かな水を生かした農業

・調べる 輪中に住む人々は、豊かな水をどのように農業に生かしているのでしょうか。 p. 28～29	1	①資料①と、資料④、⑤を見くらべて、海津市の農業がどのように変わってきたのかを話し合う。 ・昔は、沼のような田で稲作を行っていた。 ・現在では、普通の水田になっている。 ②資料②と資料③、「農家の山田さんの話」の内容をもとにわかったことを話し合う。 ・稲の生産が一番多い。 ・大豆、麦、野菜、果物など畑でつくるものも多くなっている。 ・大きな排水機場ができて、余分な水を輪中の外にくみ出している。 ③資料⑥を見て、畑作に必要な水をどのように確保しているか、わかったことを話し合う。 ・p. 23 資料④を見ると、用水路が多いのは、標高が0 m以上の場所だとわかる。 輪中では昔から農業を行っていたが、道路や揚排水機場、パイプラインなどの整備により、豊かな水を生かした大規模な農業を可能にした。	◆資料①と、資料④、⑤を見比べて、海津市の農業がどのように変わってきたのか、歴史的な変化の視点から考えるように助言する。 ◆昔からの課題であった排水が克服され、水田以外の大豆、麦類、野菜、果物などの農産物生産もできるようになり、農業が多角化してきたことを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、海津市では、水害の減少と共に、豊かな水を農業に生かしていることについて理解しているか」を評価する。
--	---	--	---	---

(5) 水を生かした生活				
・調べる 海津市の人々は、豊かな水をどのように生活に生かしているでしょうか。 p. 30	1/2	①資料①～⑥から、低い土地ならではの楽しみを見つけて話し合う。 ・木曽三川公園で遊べる。 ・ヨットが楽しめる。 ・魚料理が楽しめる。 ・温泉や歴史民俗資料館もある。 海津市の人々は、低い土地ならではの川や水を生かした楽しみがあり、市民のレクリエーションや観光などに広い土地や豊かな水を生かしている。	◆低地は水害の克服というイメージが強いので、別の視点から海津市の様子をとらえるように働きかける。特に水は人々に楽しさやおいしさを与えてくれるというイメージをとらえさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言から「必要な情報を集め、読み取り、海津市では、豊かな水をどのように生活に生かしているのかについて理解しているか」を評価する。
(5) ノートにまとめる				
・まとめる 海津市の人々のくらしや産業におけるくふうについて、ノートにまとめましょう。 p. 31	1/2	①p. 31 のノート例のように、わかったことを考えて書く。 ・沼のような昔の田は、普通の田になっている。稲の生産が一番多い。 ・畑で生産するものも多い。 ・大きな排水機場による排水と、揚水機場と用水路による配水がある。 ・低い土地ならではの楽しみがある。 海津市の人々は、明治時代の川の大改修を経て、水害を克服してきた。低地の地形を生かした農業や、季節ごとの楽しみを生かした観光などを通して、低地の自然環境を生かしたくらしをしている。	◆「ことば」を生かしながら、調べてわかったことをノートにまとめるようにする。 ◆教科書には「(教科書の) 空らん」に書きこんでみましょう」と書かれているため、書ける児童はそれでも構わない。	【知技②】 ノートの記述内容から、「調べたことをまとめて、低い土地の人々が自然環境に適応して生活していることについて理解しているか」を評価する。 【思判表②】 まとめの文章の内容から、「低い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、適切に表現しているか」を評価する。

小単元名	3. 高い土地の暮らし			教科書のページ	上 p. 32～39
配当時数	5 時間	活動時期	5 月	学習指導要領の内容	(1) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで高い土地の自然などの様子や高い土地の人々の生活をとらえ、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①国土の地形などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や高い土地の人々の生活を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、高い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。
	思考・判断・表現	①国土の地形などに着目して、問いを見出し、国土の自然などの様子や高い土地の人々の生活について考え表現している。 ②我が国の位置や地形の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、高い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①高い土地の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1) 山のすそ野に広がる高原				
・つかむ 山に囲まれた高い土地の様子とそこに住む人々の暮らしについて考え、学習問題をつくりましょう。 p. 32～33	1	①嬬恋村の航空写真を見て、土地の様子を話し合う。 ・なだらかな斜面には畑のような土地が見える。 ②嬬恋村と東京の月別平均気温を比べてわかったことを話し合う。 ・嬬恋村は1年を通して、東京よりも気温が低い。 ③嬬恋村の土地利用図を読み込んでわかったことや疑問を話し合う。 ・どうして標高の高いところでキャベツをつくるのかな。 ④p. 33 の本文と嬬恋高原キャベツマラソン大会の写真からわかることを読み取って発表する。 ・夏でも涼しいからマラソン大会ができるのかな。 ⑤学習問題をつくる。 ・東京よりも寒い気候で	◆航空写真と土地利用図を比較させて、地形とキャベツ畑のある場所の関連を考えさせる。 ◆キャベツ畑が標高の高いところに広がっていることと、嬬恋村の気温の関連に着目させる。 ◆話し合っ出てきた疑問点か	[思判表①] ノートの記述内容から、「嬬恋村の地形に着目して、問いを見出しているか」を評価する。

		キャベツはできるのかな。 高い土地で生活するためにはどのような工夫をしているのかな。 学習問題 高い土地に住む人々のくらしや産業には、どのようにふうがあるのでしょうか。	ら、学習問題をつくるように助言する。	
(2) 学習の進め方				
・学習問題をつくり、学習の進め方を確認しよう。 p. 24～25 ※本教材は選択教材のため、第2時は「低い土地のくらし」内 p. 24-25「学習の進め方」を指導する。	1	①小単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。 ②各学習過程には、「ふり返ろう」があることも確認する。 <調べること> - 高い土地に住む人々のくらしや産業 - それぞれ、どのようにふうがあるのか。 <調べ方> - 教科書を使って調べる。 - 教科書以外で調べる。 (インターネット、村のホームページ、図書館、地図帳など) <まとめ方> - 調べてわかったこと、疑問に対する答えをノートにまとめる。 - わかった事実をもとに、考えたことをノートに書き分ける。	◆問題解決的な学習の進め方で学ばせる。 ◆調べること、調べ方については、共通理解ができるようによく話し合う。 ◆まとめ方については、学級の実態などによって、別のノート以外の方法も可能である。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
(3) あれ地を耕し広い畑に				
・調べる 嬬恋村の人々は、どのようにして今のような土地にしてきたのでしょうか。 p. 34～35	1	①昔の嬬恋村の写真を見て、嬬恋村でキャベツの生産がさかんになった理由や歴史の流れについてわかったことを話し合う。 - 火山灰のやせた土地でなかなか作物が育たなかった。 - 夏でも涼しい気候を生かした栽培方法が工夫されてキャベツづくりがさかんになった。 - 昭和10年ごろに国道が通って、交通が便利になった。	◆嬬恋村の農業の歴史年表、昔の嬬恋村の写真、嬬恋郷土資料館の樋さんの話、三つの資料を関連付けて読み、わかったことを話し合わせるようにする。 ◆歴史的な見方・考え方や空間的な広がり、交通の発達に関する視点を生かして考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、嬬恋村の人々の取り組みの歴史や、今では、嬬恋村が夏でも涼しい気候を生かして全国一のキャベツの生産地になったことを理解しているか」を評価する。

		火山灰が積もってできた土地で野菜づくりには不向きだった嬬恋村を、人々が土地を改良して夏の涼しい気候を生かしたり、交通網の発達を生かしたりしながら全国一のキャベツの生産地にしていった。		
(4) 夏に新鮮なキャベツをとどける		★他教科との関連：算数		
・調べる 嬬恋村のキャベツづくりには、どのようなふうがあるのでしょうか。 p. 36～37	1	①p. 36～37 の写真から、キャベツづくりの 1 年の様子を工夫していることをノートに書き出す。 ・予冷庫で冷やすことで、鮮度を保ったまま消費地に届けている。 ②資料[5]「嬬恋村のキャベツごよみ」を関連付けて読む。 ・種まきをずらすことで、夏から秋の何回にも分けて出荷できる。 ③資料[6]「季節ごとのキャベツの産地」を見てわかったことをノートに書く。 夏秋キャベツの生産は群馬県が最も多い。夏涼しい高原の気候を生かして、夏から秋までの長い期間、何回にも分けて出荷している。	◆キャベツづくりの手順を表す写真[1]～[9]と、資料[5]「嬬恋村のキャベツごよみ」を関連付けて読むように助言する。 ◆作業一つ一つにある工夫と共に、夏から秋まで長い期間、何回にも分けて出荷できる工夫があることを見つけさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、嬬恋村では高地の気候を生かしてキャベツを生産していることや、新鮮で安全な野菜を出荷するためのさまざまな工夫をしていることについて理解しているか」を評価する。
(5) 自然のめぐみを生かす				
・調べる 嬬恋村の人々は、豊かな高原の自然を、どのように生活に生かしているのでしょうか。 p. 38	1/2	①写真資料から、高い土地ならではの楽しみを見つけて話し合う。 ・冬はスキーやスケート、夏はサイクリングや自転車レースができる。 ・地元で収穫されたキャベツが学校給食に出される。 嬬恋村には、高い土地ならではの楽しみが季節ごとにあり、自然や気候の特色をくらしに生かしている。	◆農業生産の視点だけでなく、別の視点からも嬬恋村の様子をとらえるように働きかける。特に季節ごとの楽しみ方があることをとらえさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、嬬恋村では、高い土地をどのように生活に生かしているのかについて理解しているか」を評価する。

(5)ノートにまとめる				
・まとめる 婦恋村の人々のくらしや産業におけるくふうについて、ノートにまとめましょう。 p. 39	1/2	①p. 39 のノート例のよ うに、わかったことを 考えて書く。 ・高原野菜の生産や、季節ごとの気候を生かした観光産業を行うことを通して、高原の自然環境を生かした生活をしている。 婦恋村の人々は、高い土地に適応して生活しており、高原野菜の生産や、季節ごとの気候を生かした観光産業を行うことを通して、高原の自然環境を生かしたくらしをしている。	◆「ことば」を生かしながら、調べてわかったことをノートにまとめるようにする。 ◆教科書には「(教科書の) 空らんに書きこんでみましょう」と書かれているため、書ける児童はそれでも構わない。	【知技②】 ノートの記述内容から、「調べたことをまとめて、高い土地の人々が自然環境を生かして生活していることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 まとめの文章の内容から、「高い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、適切に表現しているか」を評価する。

小単元名	4. 国土の気候の特色			教科書のページ	上 p. 42～47
配当時数	3 時間	活動時期	5 月	学習指導要領の内容	(1) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで国土の気候の様子をとらえ、国土の気候の特色を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①国土の気候について、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の気候の様子を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の国土の気候の概要を理解している。
	思考・判断・表現	①国土の気候に着目して、問いを見出し、国土の気候の様子について考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①我が国の国土の気候の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1) 四季の変化がある日本の気候		★他教科との関連：理科		
・つかむ 日本の気候について考え、学習問題をつくりましょう。 p. 42～43	1	①p. 42 の写真（長野県松本市）をもとに、身近な地域の四季の変化と比較しながら、気づいたことを発表し合う。 ・四季の様子。 ・つゆの時期や台風がくる時期がある。 ②桜のさき始める時期を示した日本列島の地図（資料②）や3月の各地の様子（資料③～⑥）を見せ、地域によっても気候が異なることに気づかせ、学習問題につなげる。 ・桜のさきは始める時期は、場所によってちがう。 ・3月の沖縄と北海道では、あたたかさが大きく異なる。 ・つゆや台風の影響も、地域ごとに異なるのかな。	◆気候という「ことば」を確認する。 ◆同じ場所の各月の風景の違いを予想させる（春や秋に比べて、夏や冬の風景の差は小さめである）。 ◆つゆ、台風、雪、季節風が気候に与える影響に関心をもたせ、調べる活動につなげる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「地域や時期による気候の違いや変化に着目して、問いを見出しているか」を評価する。
		学習問題 日本の気候には、どのような特色が見られるのでしょうか。		[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題
		③学習計画を立てる。 ・つゆ、台風、季節風の影響。 ・各地の気候の違い。		

				を解決する見通しをもっているか」を評価する。
(2) つゆと台風、季節風				
・調べる 日本のつゆや台風、季節風にはどのような特色があるのでしょうか。 p. 44～45	1	①日本の気候を特色付けているつゆ、台風、降雪に関わる景観写真を見て、どの季節のどの写真か予想する。 ②p. 44 の資料①で、7月と1月の平均降水量を比較する。 《日本列島全体の特色》 - 日本列島全体では、夏（7月）に降水量が多く、冬（1月）は少ない。 《地域ごとの違い》 - 太平洋側は夏に降水量（雨）が多く、日本海側は冬に降水量（雪）が多い。 - 北海道では夏でも雨が少ない地域がある。 - 沖縄は冬でも雨がが多い。 ③資料②～⑦や本文から、夏と冬の降水量が異なる理由を確認する。 - 夏は、つゆや台風の影響で雨が多く降る。 - 雨は、農業にとってめぐみの雨となるが、台風などによって被害がでることがある。 - 特に太平洋側は季節風の影響で雨が多く降る。 - 冬は、季節風の影響によって日本海側で雪が多く降る。 つゆや台風、季節風は、日本の気候を特色付けている現象であり、人々の暮らしにも大きく関係している。	◆「雨（雪）が多いのは、どこか、どの範囲か」というように位置や空間に着目し、読み取りができるよう留意する。 ◆季節風という「ことば」を確認する。 ◆地形の学習をふり返り、季節風と地形の関係性を確認する。 ◆それぞれの気候現象が人々のくらしに及ぼしている影響にも留意するように指導する。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の気候の特色であるつゆや台風、季節風とその影響を理解しているか」評価する。
(3) 地域によってことなる気候				
・調べる 各地の気候には、どのような特色があるのでしょうか。 p. 46～47	1/2	①p. 46 資料①の気温と降水量のグラフや「まなび方コーナー」をもとに、グラフの読み取り方を学ぶ。	◆p. 42 のまなび方コーナーを活用し、気温と降水量のグラフの読み取り方を確認	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「南北の位置や地形によって分けら

		②日本の気候を六つに区分した地図と、各地の気温と降水量のグラフを見比べて考えたことを話し合う。 ・北（北海道）と南（沖縄）で気温が大きく異なる。 ・季節風の影響で、太平洋側は夏に降水量（雨）が多く、日本海側は冬に降水量（雪）が多い。 ・中央高地や瀬戸内海などの日本の内陸側の降水量は海側よりも少ない。 ・山地などの高いところでは、気温が低くなる。 日本各地の気候の特色は、年間の気温と降水量などで区分される。また、南北の位置や地形、土地の高さなどによって、雨の多い地域、雨の少ない地域、雪の多い地域のように気候は異なっている。	する。 ◆六つの地域の気温や降水量を位置や地形と関連付け、比較することで、各地域の気候の特色を読み取り、考えを深める中で各地の気候の特色をまとめていきたい。	れる日本各地の気候の特色について考え表現しているか」を評価する。
(3) ノートにまとめる				
・まとめる 日本の気候の特色についてまとめましょう。 p. 47	1/2	①日本の気候の特色と各地の気候に影響をあたえるものをキーワードであげ、整理する。 ②キーワードを使い、考えたことをノートにまとめ、みんなで話し合う。 日本の気候には、四季の変化が見られ、南北の位置、地形や季節風などによる地域差が大きい。また、つゆや台風等が、人々の暮らしに大きく関係している。	◆調べたことをこれまで学んだ「ことば」を使ってまとめるとともに、日本の気候の特色について自分の考えを表現させる。	【知技②】 ノートにまとめた文章や発言内容から、「四季やつゆ、台風など時期による変化や国土の地理的位置による地域ごとの違いなど日本の気候の特色を理解しているか」を評価する。

小単元名	5. あたたかい土地のくらし			教科書のページ	上 p. 48～55
配当時数	4 時間	活動時期	6 月	学習指導要領の内容	(1) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることであたたかい土地の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活をとらえ、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①国土の気候などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、あたたかい土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。
	思考・判断・表現	①国土の気候などに着目して、問いを見出し、国土の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活について考え表現している。 ②我が国の位置や気候の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、あたたかい土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①あたたかい土地のくらしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1) 沖縄県の家やくらしのくふう				
・つかむ 沖縄県の家やくらしのくふうについて考え、学習問題をつくりましょう。 p. 48～49	1	①写真を見ながら、自分たちのくらししている地域との違いを発表し合う。 ・わたしたちの学校のプール開きは6月だよ。 ・3月はまだ長袖を着ているよね。 ②グラフを見て、沖縄県の気候の特色を話し合う。 ・1月でも気温が15度以上ある。 ・雨がたくさん降る。 ・台風が多いみたいだ。 ③沖縄県の家の写真やイラストを見て、気づいたことを話し合う。 ・わたしの家にはない工夫がたくさんある。 ・暑さや水不足に備えた工夫がある。	◆海開きの写真から、沖縄県の暑さについて想像させる。 ◆雨温図で最低気温の月の気温や降水量の多い月を読み解かせ、台風の多さや気温の高さなど沖縄県の気候の特徴をつかませる。 ◆沖縄県の家屋の特徴から、気候に合わせた生活をしていることをつかませるとともに、産業や文化についても調べようとする意欲をもたせる。	[思判表①] 発言内容から、「海開きの写真や台風が通る回数に着目して、問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 沖縄県の人々は、あたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのでしょうか。		

(2) あたたかい気候に合った農業				
・調べる 沖縄県の人々は、あたたかい気候を生かしてどのような産業を営んでいるのでしょうか。 p. 50～51	1	①写真とグラフからさとうきび栽培について話し合う。 ・さとうきびの栽培がさかんだね。 ・竹のような作物だね。 ・どうやって砂糖にするのかな。 ②製糖会社の人の話を読み、さとうきびについて話し合う。 ・さとうきびは沖縄県の気候に合っている。 ・沖縄県の人々はさとうきび栽培を大切にしている。 ③写真からパイナップル栽培について話し合う。 ・わたしたちの住んでいる地域ではパイナップルはつくっていないね。 ・パイナップルはあたたかい地域の作物だね。 ④パイナップル農家の話や電照菊の栽培について読み、沖縄県の自然環境に合った農業について話し合う。 ・沖縄県の人々はあたたかい気候を生かした農業を工夫している。 沖縄県では、1 年を通して気温や湿度が高い気候に合ったさとうきびを栽培している。また、パイナップルなど沖縄県の気候に合う特産物も栽培している。	◆作付面積のグラフや写真から、さとうきび栽培がさかんな様子を知り、どうしてさかんになったのか考えさせる。 ◆「製糖会社の砂川さんの話」から、さとうきびが沖縄県の農業に欠かせない作物であることを考えさせる。 ◆写真から、どうして沖縄県ではパイナップルが栽培できるのか考えさせ、自然環境の特色に目を向けさせる。 ◆農家の話や電照菊の栽培の説明から、自然条件を生かし、人々が農業の発展に努めている様子に気づかせる。	[知技①] 発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、さとうきびやパイナップルが沖縄県のあたたかい気候に合った作物として栽培されていることや農家の工夫や努力について理解しているか」を評価する。
(3) あたたかい気候を生かした観光と沖縄の課題				
・調べる 沖縄では、あたたかい気候をどのように生かしているのでしょうか。 p. 52～53	1	①写真とグラフから沖縄県の自然と観光について話し合う。 ・白い砂浜やさんごしょうがきれい。 ・プロ野球のキャンプも行われている。 ・観光客が増えている。 ②県庁の方の話を読んで、沖縄県の観光について意見を発表し合	◆写真の美しい自然に目を向けさせるとともに、あたたかい気候とも関連付けて、沖縄県の観光の特色について考えさせる。 ◆沖縄県の観光が自然条件や環境を生かして行わ	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「あたたかい気候を生かした観光がさかんな一方で、美しい自然を壊す開発などの沖縄県がかかえる課題について、考え表現しているか」を評

		う。 ・美しい自然やあたたかい気候を生かした観光を行っている。 ・外国からの観光客を増やす工夫もしている。 ③資料などから沖縄県の課題について発表する。 ・さんごしょうは温暖化などによって白くなってしまうことがあるんだね。 ・アメリカの軍用地が残されているね。 沖縄県は、1年を通してあたたかい気候や、美しい自然を生かした観光産業がさかんで、多くの観光客がおとずれている。	れているとともに、人々が工夫していることに気づかせる。 ◆沖縄県の観光を支える自然環境の保全や軍用地の課題について意見をもちこせる。	価値する。
(4) 古くからの文化を守る				
・調べる 沖縄県の文化は、どのようなものだろうか。 p. 54～55	1/2	①写真から沖縄県の文化について気づいたことを発表し合う。 ・色鮮やかな建物や服装だね。 ・食べ物も特徴がある。 ②沖縄県の文化について調べる。 ・古くからアジアの国々と貿易をしていた。 ・南にある島だから、独自の文化が生まれたんだね。 沖縄県の人々は、歴史ある豊かな文化と自然を大切に、自分たちの文化を守り、次の世代に引き継ぐ努力をしている。	◆写真から沖縄県の文化の独自性に気づかせる。 ◆南に位置する沖縄県の地理的な条件が独自の文化を生んだことを理解させる。	【知技①】 発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、沖縄県の文化の特色について理解しているか」を評価する。
(4) 表にまとめてキャッチコピーをつくる				
・まとめる あたたかい土地のくらしの特色を表にまとめ、キャッチコピーをつくりましょう。 p. 55	1/2	①沖縄県のくらしの特色を表にまとめる。 ・これまでの学習を表にまとめる。 ②学習したことをもとに沖縄の特色を表すキャッチコピーをつくる。 ・産業も文化も自然や気候と切り離せないね。	◆学習したことについて、生活や産業、文化などの項目に分けてまとめる。 ◆表をもとにキャッチコピーをつくらせる。	【知技②】 キーワードやキャッチコピーの内容から、「あたたかい気候を生かした沖縄の特色について理解しているか」を評価する。 【思判表②】 キャッチコピーの

		沖縄県では、夏の暑さや台風から暮らしを守る工夫をするとともに、あたたかい気候や自然を生かした観光産業がさかんで、気候を生かした特産物があるなど、自然条件を生かした暮らしをしている。		内容から、「あたたかい土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて、考え表現しているか」を評価する。
--	--	---	--	---

小単元名	5. 寒い土地の暮らし			教科書のページ	上 p. 56～63
配当時数	4 時間	活動時期	6 月	学習指導要領の内容	(1) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで寒い土地の自然などの様子や寒い土地の人々の生活をとらえ、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①国土の気候などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や寒い土地の人々の生活を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、寒い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。
	思考・判断・表現	①国土の気候などに着目して、問いを見出し、国土の自然などの様子や寒い土地の人々の生活について考え表現している。 ②我が国の位置や気候の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、寒い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①寒い土地の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1) 北海道の家や暮らしのくふう				
・つかむ 北海道の家や暮らしのくふうについて考え、学習問題をつくりましょう。 p. 56～57	1	①写真を見ながら、自分たちのくらしている地域との違いを発表し合う。 ・わたしたちの学校ではスキー学習はないね。 ・こんなに雪が積もっているんだね。 ②グラフを見て、北海道の気候の特色を話し合う。 ・1月などは0度を下回っている。 ・冬の降水量も多いね。 ・雪が多いみたいだ。 ③北海道の家の写真やイラストを見て、気づいたことを話し合う。 ・わたしの家にはない工夫がたくさんある。 ・寒さや雪に備えた工夫がある。	◆スキー学習の写真から、北海道の寒さについて想像させる。 ◆雨温図の最低気温の月の気温や降水量の多い月を読み解かせ、北海道の気候の特徴をつかませる。 ◆北海道の家屋の特徴から、気候に合わせた生活をしていることをつかませるとともに、産業や文化についても調べる意欲をもたせる。	[思判表①] 発言内容から、「スキー学習の写真や雨温図に着目して、問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 北海道の人々は、雪や寒い気候をどのように暮らしや産業に生かしているのでしょうか。		

(2) 札幌市の雪対策と雪を生かした観光				
・調べる 札幌市に住む人々は、雪とともにどのような生活を営んでいるのでしょうか。 p. 58～59	1	①写真から雪対策について話し合う。 ・雪が山のように積まれている。 ・雪をとかす施設やためておく施設が市内にたくさんある。 ②雪対策室の人の話を読み、雪対策について話し合う。 ・人々の生活に影響が出ないようにさまざまな工夫をしている。 ③雪まつりの写真から、雪を生かした取り組みについて意見を発表し合う。 ・雪を使って楽しそうなことをしている。 ・誰がこんな大きな雪像をつくったのかな。 ④グラフや市役所の方の話を読んで、雪の多さを生かした観光について話し合う。 ・北海道の人々は雪の多さを生かした観光を工夫している。 雪の多い札幌市では、除雪を行うなど雪を克服したり、雪を生かして観光を営んだりしている。	◆写真から雪の多さをとらえさせ、雪対策の大切さについて考えさせる。 ◆人々の生活を守るために、雪対策が欠かせないことを考えさせる。 ◆写真から、雪を生かした遊びの楽しさを想像させ、雪まつりの起源を考えさせる。 ◆観光客の少ない冬に祭りをを行う工夫を考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、市では市民の生活を守るために雪対策を行っていることや雪を有効利用した観光事業の創設など工夫や努力をしていることについて理解しているか」を評価する。
(3) 十勝地方の自然を生かした農業				
・調べる 十勝地方の人々は、自然を生かしてどのような産業を行っているのでしょうか。 p. 60～61	1	①写真と図表から十勝地方の農業について話し合う。 ・とても広い農地だね。 ・たくさんの農産物ができそうだ。 ・何をつくっているのだろう。 ②農家の方の話から、十勝地方の農業について意見を発表し合う。 ・広い土地を生かして農業をしている。 ・病気を防ぐために輪作などの工夫もしている。 ③資料①、④の写真などと「まなび方コーナー」	◆広大な農地の写真から、十勝地方の農業の特色を想像させる。 ◆十勝地方の農業が地理的条件を生かしているとともに、輪作など、人々が工夫していることに気づかせる。 ◆写真から、広大な土地と大型機	[知技①] ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、涼しい気候と広大な土地を生かした十勝地方の農業の様子について理解しているか」を評価する。

		から農業の特色を話し合う。 - 道から道まで 545mの区画なんて想像できないほど広い畑だね。 - 広い土地で大型の機械を使ってじゃがいもをつくっているんだね。 十勝地方では、広大な土地や夏でも涼しい気候を生かして農業を行っている。	械の関係について考えさせる。	
(4) 守ってきた文化を受けつぐ				
・調べる 北海道に伝わるアイヌの文化は、どのようなものでしょうか。 p. 62～63	1/2	①写真から北海道の文化について気づいたことを発表し合う。 - 特徴のある服装だね。 - 食べ物も特徴がある。 ②北海道の文化について調べる。 - 昔から先住民族のアイヌの人々が生活している。 - 本州やロシアと交流しながら独自の文化をつくってきたんだね。 北海道には、昔から先住民族のアイヌの人々がいて、独自の文化をつくってきた。	◆写真からアイヌの文化の独自性に気づかせる。 ◆現在もアイヌの人々が生活し、先住民族であるアイヌの人々の文化を尊重することの大切さに気づかせる。	[知技①] 発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、アイヌ文化の特色について理解しているか」を評価する。
(4) 表にまとめてキャッチコピーをつくる				
・まとめる 寒い地方のくらしの特色を表にまとめ、キャッチコピーをつくりましょう。 p. 63	1/2	①北海道のくらしの特色を表にまとめる。 - これまでの学習を表にまとめてみよう。 ②学習したことをもとに、北海道のくらしの特色を表すキャッチコピーをつくる。 - 産業も文化も自然や気候と切り離せないね。 北海道の人々は、冬の寒さや雪からくらしを守る工夫をするとともに、夏の涼しさや雪を生かした観光や広大な土地を使った農業などがさかんで、北海道の自然条件を生かしたくらしをしている。	◆学習したことについて、生活や産業、文化などの項目に分けてまとめる。 ◆表をもとにキャッチコピーをつくらせる。	[知技②] キーワードやキャッチコピーの内容から、「寒い気候を生かした北海道のくらしの特色について理解しているか」を評価する。 [思判表②] キャッチコピーの内容から、「寒い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて、考え表現しているか」を評価する。

単元名	2. わたしたちの生活と食料生産 (オリエンテーション)			教科書の ページ	上 p. 66～67
配当時数	1 時間	活動時期	6 月	学習指導要 領の内容	(2) アイ

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1) 給食の材料				
・わたしたちは、ふだん、どのようなものを食べているのでしょうか。 p. 66～67	1	① 全国の給食や学校の給食の材料について話し合い、単元のめあてをつくる。 ・全国にはいろいろな給食がある。 ・給食にはいろいろな材料が使われている。 ・給食のこんだては、米や豆、果物、水産物、野菜、畜産物に分類できる。 ・給食の材料は、地域だけでなく、全国各地から集められている。	◆ 全国の給食について話し合わせるときには、地域の特産品を使って給食がつけられていることに気づかせる。 ◆ 給食のこんだてを分類するときには、米や豆、果物、水産物、野菜、畜産物に分類させる。	【思判表】 発言内容やノートの記述内容から、「給食の材料に着目して、問いを見出しているか」を評価する。
		めあて わたしたちが食べているものは、どこでどのようにつくられ、運ばれてきているのでしょうか。		

小単元名	1. 暮らしを支える食料生産			教科書のページ	上 p. 68～75
配当時数	4 時間	活動時期	6 月	学習指導要領の内容	(2) ア-(7) (ウ), イ-(7)

小単元の目標		我が国の農業や水産業における食料生産について、生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで食料生産の概要をとらえ、食料生産が国民に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の概要を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解している。
	思考・判断・表現	①生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、問いを見出し、食料生産の概要について考え表現している。 ②我が国の農産物や水産物の種類や生産量、農業や水産業がさかんな地域の分布などの情報を総合したり、農業や水産業における食料生産と国民生活を関連付けたりして食料生産が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①我が国の食料生産の概要について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)産地調べ				
・つかむ わたしたちが食べている食料品の産地について調べ、学習問題をつくりましょう。 p. 68～69	1	①スーパーマーケットのちらしを地図に貼り付け、食料品の産地の広がりについて話し合い、学習問題をつくる。 ・野菜は、わたしたちが生活している近くで生産されている。 ・外国から来た食料品もたくさんある。	◆各自持ち寄ったちらしを地図に貼り付けることで、スーパーマーケットで売られている食料品が全国でつくられていることに気づかせる。	[思判表①] 発言内容から、「食料品の産地の広がり」に着目して、問いを見出しているかを評価する。 [態度①] 発言内容や白地図から「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 わたしたちの暮らしを支えている食べ物の産地は、どのように広がっているのでしょうか。		
		②学習問題の解決にむけ、予想し、学習計画を立てる。 ・米の産地は全国各地に広がっている。 ・りんごは寒いところで、みかんはあたたかいところでとれる。	◆地形や気候の自然条件の違いが食料品の産地の違いに影響を及ぼしていることに気づかせながら、学習計画を立てさせる。	
(2)日本の米づくり				
・調べる 米の主な産地はどこでしょうか。	1	①日本の米づくりに着目して、米の主な産地を	◆米づくりのさかんな地域が東北	[知技①] 発言内容やノート
★他教科との関連：算数				

p. 70～71		とらえる。 ・米は寒いところで多くつくられている。 ・米はあたたかいところでもつくられている。 米は全国各地で生産されていて、主な産地は東北地方と北海道である。	地方や北海道に集まっているのは、寒冷という自然の特色を生かしていることに気づかせる。 ◆米の収穫量の上位五つを調べる活動では、地図帳を活用させる。	の記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、米の主な産地について理解しているか」を評価する。
(3)農産物の産地				
・調べる 野菜，果物，畜産の産地はどのように広がっているのでしょうか。 p. 72～73	1	①農産物の産地に着目して，農産物の産地の全国的な広がりをとらえる。 ・米の生産額は減っている。 ・野菜，果物，畜産物の生産量の高い地域は，それぞれ異なっている。 野菜，果物，畜産物は，自然条件に影響を受けて生産されるため，主な産地はそれぞれ異なっている。	◆「まなび方コーナー」を活用して，農産物の生産額の変化のグラフを読み取らせ，増加している農産物と減少している農産物に気づかせる。 ◆野菜，果物，畜産の三つの地図を比較させ，日本各地で農産物が生産されていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から，「必要な情報を集め，読み取り，農産物の産地の全国的な広がりについて理解しているか」を評価する。
(4)地図にまとめる				
・まとめる わたしたちが食べている食べ物の主な産地はどのようなところか，まとめましょう。 p. 74～75	1	①学習問題について調べたことをもとにして，食べ物の主な産地について白地図にまとめる。 ・米は，東北地方や北海道の生産が多い。 ・水産物の水あげ量は，千葉県の銚子港が第1位（2017年）である。 ②白地図にまとめたことをもとに話し合い，食べ物の産地と自然環境との関連性を考える。 ・野菜は，気候などの自然の特色を生かし，全国で生産されている。 ・畜産は，広い土地をもつ都道府県で行われている。 我が国の食料生産は，自然条件と深い関わりをもって営まれ，全国には米をはじめ，野菜，果物，畜産物，水産物などのさかんな地域が分布している。	◆地図帳を活用して，都道府県の位置を確認させながら，まとめの作業を進めさせる。 ◆「やってみよう」の活動では，都道府県と農作物をあげるだけでなく，自然の特色と関連付けながら，我が国の食料生産の特色にも気づかせる。	[知技②] まとめた地図の記述内容から，「調べたことをまとめ，生産物の種類や分布を理解しているか」を評価する。 [思判表②] ノートの記述内容から，「生産物の種類や分布，自然の特色を関連付け，我が国の食料生産の特色を考え表現しているか」を評価する。

小単元名	2. 米づくりのさかんな地域			教科書のページ	上 p. 76～93
配当時数	8 時間	活動時期	7 月	学習指導要領の内容	(2) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の米の生産について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種の資料で調べ、まとめることで、米づくりに関わる人々の工夫や努力をとらえ、その働きを考え、表現することを通して、我が国の米づくりに関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な米を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、米づくりに関わる人々の工夫や努力を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の米づくりに関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な米を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。
	思考・判断・表現	①米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見出し、米づくりに関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ②米づくりの仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて米づくりに関わる人々の働きを考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①我が国の米の生産について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1) 庄内平野をながめて・地形と気候の特色				
★他教科との関連：家庭				
・つかむ 庄内平野はどのようなところなのでしょう p. 76～79	1	①庄内平野の航空写真を見て、気づいたことや、景観の特色についてわかったことを発表し合う。 ・庄内平野は平らな土地が広がっている。 ・庄内平野に多くの水田があって、米づくりがさかんであることは、自然の特色と関係があるのではないかな。 ②土地利用図や雨温図、写真などを読み取ることを通して、庄内平野の地形と気候の特色について話し合う。 ・大きな川が庄内平野を流れている。 ・酒田市は宮古市と比べ、冬に降水量が多く、夏の平均気温が高いため、米づくりに適した気候である。	◆「まなび方コーナー」を活用し、航空写真から庄内平野の様子を概観させ、景観の特色に気づかせる。 ◆土地利用図や雨温図などから、庄内平野の地形と気候の特色に気づかせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「庄内平野の地形や気候の特色に着目して、問いを見出しているか」を評価する。

		米づくりのさかんな庄内平野では、稲作に適した自然条件がそろっている。		
(2)米づくりのさかんな庄内平野				
・つかむ 写真やグラフを見て、庄内平野の米づくりについて話し合い、学習問題をつくりましょう。 p. 80～81	1	①写真やグラフを読み取り、わかったことや疑問に思ったことから学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ・庄内平野の水田はとても大きい。 ・庄内平野のある山形県では、10aあたりの米の生産量が高い。 ・庄内平野の米づくりには、農家のさまざまな工夫や努力があるのではないかな。	◆写真やグラフから、庄内平野が日本有数の米の産地であることに気づかせ、学習問題につなげる。 ◆予想や学習計画を立てさせながら、意欲的に学習活動に取り組ませるようにする。	【態度①】 ノートの記述や発言、学習計画の表の内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 庄内平野で米づくりにかかわる人々は、どのようにくふうや努力をして、よりよい米を生産しているのでしょうか。		
(3) 柊津さんの米づくり				
・調べる 農家の人々は、米づくりをどのように進めているのでしょうか。 p. 82～83	1	①柊津さんの米づくりに着目して、米づくり農家の工夫や努力をとらえる。 ・一年間を通して、農家は米づくりを行っている。 ・農家は一人で米づくりを進めるのではなく、地域の人と協力して、米づくりをしている。 米づくり農家は、種もみを選ぶところから、出荷前にもみすりをするところまで、工夫や努力を重ねている。	◆調べたことを農作業暦にまとめ、米づくり農家の工夫や努力に目を向けさせる。 ◆米づくりが一年を通して計画的に行われていることに気づかせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、一年間を通しての米づくり農家の工夫や努力について理解しているか」を評価する。
(4)生産性を高める米づくりのくふう				
・調べる 農家の人々は、米の生産性を高めるためにどのようにくふうしてきたのでしょうか。 p. 84～85	1	①生産性を高める米づくりの工夫に着目して、米づくり農家が、生産性を高め、よりよい米づくりを進めてきたことをとらえる。 ・米づくりに欠かせない水の量を上手に調整するために、庄内平野の水田にはさまざまな工	◆庄内平野の米づくりの移り変わりから、生産性を高めようとする米づくり農家の工夫や努力に気づかせる。 ◆米づくりがとてもつらい仕事であったことに目	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、生産性を高めるために農家が行ってきた工夫について理解しているか」を評価する。

		夫がある。 ・耕地整理や機械化などを進め、庄内平野の生産性は高まってきた。 米づくり農家は、耕地整理や機械化を進め、生産性を高める工夫や努力を進めてきた。	を向けさせ、機械化などの工夫が、労働時間の短縮に役立っていることに気づかせる。	
(5) 庄内平野の米づくりを支える人たち				
・調べる 農家の人々を、だれがどのように支えているのでしょうか。 p. 86～87	1	①庄内平野の米づくりを支える人たちに着目して、農家を支える人たちの仕事をとらえる。 ・米づくりに、農業協同組合の人々の協力は欠かせない。 ・水田農業試験場では、品種改良の研究をして、農家を支えている。 農業協同組合や水田農業試験場などは、安全でおいしい米づくりのために、農家を支援している。	◆米づくり農家を支える組織や人に目を向けさせ、庄内平野の米づくりの工夫に気づかせる。 ◆商品価値を高めるために品種改良は重要であり、継続的に品種改良が行われてきたことに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、農家を支える人たちの仕事について理解しているか」を評価する。
(6) おいしい米を全国に				
・調べる 庄内平野の米は、どのように消費者にとどけられるのでしょうか。 p. 88～89	1	①庄内平野の米が消費者に届けられるまでの様子に着目して、生産地と消費地を結ぶ輸送の働きや、米づくりにかかる費用をとらえる。 ・米の輸送には、輸送先となる消費地との距離に応じて、フェリーやトラックなどが使い分けられている。 ・わたしたちのところに米が届くまでには、輸送や販売にも費用がかかる。 生産された米は、輸送方法を工夫して、消費者に届けられている。	◆カントリーエレベーターにおける米の保管方法を確認し、カントリーエレベーターが米の味を保つために重要な役割を果たしていることに気づかせる。 ◆米づくり農家とわたしたちが、輸送方法の工夫によってつながっていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、生産地と消費地を結ぶ輸送の働きや、米づくりにかかる費用について理解しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「これまでの学習をふり振り返り、さらに調べるべきことを考え、農家の人々がかかえる課題について調べる見通しをもっているか」を評価する。
(7) 米づくり農家のかかえる課題と新しい取り組み				
・調べる 農家の人々は、さまざまな課題をどのように解決しようとしているのでしょうか。	1	①米づくり農家のかかえる課題と新しい取り組みに着目して、これからの日本の米づくりの	◆米づくりが抱える課題を解決するために、米づくり農家がさま	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「これからの日本

p. 90～91		あり方を考える。 ・米のほかに大豆などを栽培して、農家は生産調整をしている。 ・庄内平野の農家は、消費者との結びつきを深めるために、関東地方の小学校で出前授業を行っている。 米づくり農家は、農業従事者の減少などの課題を抱えているが、課題解決のために工夫や努力を重ねている。	さまざまな取り組みを行っていることに気づかせる。 ◆米づくり農家の努力によって、わたしたちは毎日おいしい米を食べられることを考えさせる。	の米づくりのあり方について考え表現しているか」を評価する。
(8) これまでの学習をふり返る				
・まとめる これまでの学習をふり返り、米づくりがさかんな地域の人々のくふうや努力についてまとめましょう。 p. 92～93	1	①学習問題について調べたことに基づいて、米づくりがさかんな地域の人々の工夫や努力について表にまとめる。 ・米づくりは、3月の種もみを選ぶところから始まる。 ・米はトラックや鉄道などを利用して、わたしたちのところへ届いている。 ②表にまとめたことをもとに、我が国における農業の役割について話し合い、考えを深める。 ・わたしたちの生活に農業は欠かせない。 ・農業が抱える課題を、わたしたちは協力して解決していかなければならない。 米の生産にかかわる人々は、自然条件を生かしたり、生産の工程や輸送方法を工夫したりして、安全でおいしい米を消費者に届けるために努力している。	◆「まなび方コーナー」を活用して、米づくりにかかわる人々の工夫や努力を表にまとめさせる。 ◆作業の進め方を確認しながら、適宜、グループ活動を組織して、協働的に表を作成させる。 ◆米づくりに限らず、農業全般を意識させながら、これからの農業のあり方を自分事として考えさせる。	【知技②】 ノートの記述内容から、「調べたことをまとめて、米づくりがさかんな地域の人々の工夫や努力を理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「米づくりのしくみと農家の工夫や努力を関連付け、我が国における農業の役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。

小単元名	3. 水産業のさかんな地域			教科書のページ	上 p. 96～109
配当時数	7 時間	活動時期	9 月	学習指導要領の内容	(2) ア-(イ) (ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種の資料で調べ、まとめることで、水産業に関わる人々の工夫や努力をとらえ、その働きを考え、表現することを通して、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。
	思考・判断・表現	①水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見出し、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ②水産業の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の働きを考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①水産業における食料生産について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1) 魚を消費する日本				
・つかむ わたしたちの食生活と水産業について考え、学習問題をつくりましょう。 p. 96～97	1	①日本の水産業の様子について、地図や統計資料等を読み取る活動を通して、わかったことや疑問に思ったことを整理して学習問題をつくる。 - 日本の一人あたりの魚や貝の消費量は世界でも非常に多い。 - 日本は、魚を多く食べるのに、魚をとる量は、減っている。 学習問題 長崎で水産業にかかわっている人々は、どのように魚をとり、消費者にとどけているのでしょうか。 ②学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てる。 - どのようにして魚をとっているのか。 - とった魚はどのようにしてわたしたちにとどけられるのか。	◆漁港の水あげ量の資料から空間的な見方を働かせ、日本の近海は良い漁場に恵まれていることに気づかせる。 ◆写真資料等も活用し、魚の消費の多い日本が抱える課題にも気づかせるようにする。 ◆消費者である自分と関連付けて予想等を立てさせる。	[思判表①] 発言内容から、「日本の漁業生産量の変化、消費量、主な漁港の水あげ量などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

(2)魚を集めてとるまきあみ漁				
・調べる 長崎漁港の近海でさかんな沖合漁業は、どのように行われているのでしょうか。 p. 98～99	p.	①写真やイラストから、まき網漁についてわかったことをノートにまとめ発表する。 ・船団を組んでまき網漁を行っている。 ・魚群探知機で魚を探したり、船の上からスマートフォンで情報を漁港に送ったりしている。 ・とれる魚の量は、天候や魚の群れのいる場所など自然環境に影響される。 長崎県では、沖合漁業がさかんである。沖合漁業では魚群探知機で魚の群れを探し、船団を組んだまき網漁が工夫して行われている。	◆地図から長崎漁港が地形的にも恵まれている環境であることを読み取らせる。 ◆写真と図のほか映像資料なども用意し、まき網漁のやり方や工夫について調べさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、長崎漁港で行われている沖合漁業の様子について理解しているか」を評価する。
(3)長崎漁港から食卓へ				
・調べる 長崎漁港に水あげされた魚は、どのようにしてわたしたちの食卓へとどくのでしょうか。 p. 100～101	1	①写真を見て、長崎漁港の様子や水あげされた魚が食卓にとどくまでの流れについてわかったことをノートにまとめる。 ・水あげ……とった魚が長崎漁港に水あげされる。魚は、種類や大きさごとに分けられる。 ・せりおとされた魚は、新鮮さを保ったまま出荷するために保冷機能のついたトラックで出荷される。 ②魚が運ばれる道を道路地図で確認する。 ・長崎から高速道路で全国に運んでいる。 ・東京で買う魚の値段には、どのような費用が含まれているのだろうか。 長崎漁港で水あげされた魚は、魚市場でせりかけられ、全国へ運ばれる。魚が消費者に届くまでには、さまざまな人々が関わり価格が変動する。	◆航空写真から漁港の広さやまわりの環境を読み取らせる。 ◆とった魚が消費者に届けられるまでにはどのような人の働きがあるか人々の関わりについて気づかせるようにする。 ◆魚の値段には、生産から販売までのさまざまな費用が含まれていることに触れる。いろいろな人が関わったり、遠くへ運んだりした分、値段が高くなることも予想させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、水あげされた魚がどのように消費者に届けられるかについて理解しているか」を評価する。

(4) つくり育てる漁業				
・調べる つくり育てる漁業は、どのように行われているのでしょうか。 p. 102～103	1	①写真と養殖業者の人の話から、とらふぐの養殖の様子についてわかったことをノートにまとめる。 - ほかの魚をきずつけないように、歯切りの作業を1匹ずつ行う。 - 生産が安定しているので地元の若い人が養殖業をするようになってきている。 ②イラストと写真から魚や貝の卵を育てている水産センターについて調べ、育てる漁業について話し合う。 - 魚や貝の卵を育てるだけでなく、養殖の魚の病気の対応もしている。 - 限られた水産資源を守り、安定して魚がとれるように研究している。 長崎市では、とらふぐの養殖がさかんで、さまざまな工夫がされている。水産センターでは、魚や貝の卵を育てたり、さいばい漁業を行ったりして水産資源を守っている。	◆なぜ養殖は安定しているのか、写真や養殖業者の人の話から考えさせる。 ◆赤潮など海に関する自然災害の資料は教師が用意しておく。 ◆つくり育てる漁業にはどのような工夫や努力があるのか、養殖と水産センターの関わりに気づかせる。	【知技①】 ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、つくり育てる漁業の様子について理解しているか」を評価する。 【思判表①】 発言内容から、「養殖業者や水産センターが、協力しながらつくり育てる漁業を行っていることについて考え表現しているか」を評価する。
(5) すり身からかまぼこをつくる				
・調べる 長崎漁港の周辺では、どのようにして水産加工品がつけられているのでしょうか。 p. 104～105	1	①写真とかまぼこ工場の人の話から、かまぼこづくりについてわかったことをノートにまとめる。 - 漁港の近くには、いわしやあじなどの魚からすり身をつくる工場がある。 - かまぼこ工場では、すり身をさらに加工してかまぼこやちくわなどをつくっている。 長崎漁港のそばには、すり身をつくる工場やかまぼこ工場などがあり、漁港でとれた魚を加工して消費者のもとへ届けている。	◆地図から漁港のそばにすり身工場やかまぼこ工場があることを知り、新鮮な魚が使えることに気づかせる。 ◆写真から、全てが機械の作業でなく、手作業も多いことに気づかせ、かまぼこを食べてもらおうという工場の人の願いについて考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、水産物を加工してすり身やかまぼこなどをつくる人々の工夫や努力について理解しているか」を評価する。

(6) 日本の水産業がかかえている課題				
・調べる 日本の水産業には、どのような課題があるのでしょうか。 p. 106～107	1	①地図とグラフや調べたことをもとに、日本の水産業の課題について読み取り、わかったことをまとめて発表する。 ・日本の遠洋漁業・沖合漁業の生産量はどんどん減ってきている。 ・漁業で働く人の数も減ってきている。 ・わたしたちがこれからも同じように魚を食べていくためには、どうすればよいのだろう。 日本では、200 海里水域の影響もあり、遠洋漁業や沖合漁業の生産量は減っている。漁業で働く人の数も減っていて、水産業の課題を改善していく必要がある。	◆漁業別の生産量の変化と水産物輸入量の変化のグラフを比較して考えさせる。 ◆漁業で働く人数の変化のグラフと学習してきたことを関連付けて考えさせる。	【態度①】 発言内容から、「これまでの学習をふり返し、さらに調べるべきことを考え、日本の水産業がかかえている課題を調べる見通しをもっているか」を評価する。 【思判表①】 ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の水産業がかかえている課題について調べたことを考え表現しているか」を評価する。
(7) プレゼンテーションソフトを使ってまとめる				
・まとめる 水産業がさかんな地域の人たちのくふうや努力について調べたことをまとめてみましょう。 p. 108～109	1	①これまで学習したことをふり返し、プレゼンテーションソフトを使ってまとめる。 ・日本は豊富な水産資源に恵まれている。 ・長崎漁港のまわりでは、まき網漁がさかんである。 ・長崎漁港のまわりには、とった魚をすり身にする工場やかまぼこ工場がある。 ・養殖やさいばい漁業など魚をつくり育てる漁業もある。 ②まとめた作品をもとにこれからの漁業について考えたことを発表し合う。 ・漁業についてもっと自分たちが興味をもとう。 ・漁業はこれからもっと機械化が進むのではないかな。	◆プレゼンテーションソフトを上手に活用できるように事前に使い方の練習をしておく。 ◆プレゼンテーションソフトにまとめる時に必要な画像資料等は教師が事前に用意しておく。 ◆できあがったプレゼンテーションをプロジェクターで映し出したり、パソコン画面で共有したりして、クラス全体で確認する。 ◆学習してきたことを生かしてこれからの漁業について考えることができるようにする。	【知技②】 プレゼンテーションの内容から、「調べたことをまとめ、水産業がさかんな地域の人々の工夫や努力により、消費者に魚が届けられ、食料生産を支えていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 プレゼンテーションや発言の内容から、「漁業に関わる人々の工夫や努力、水産業の課題について考え、適切に表現しているか」を評価する。

		我が国の水産業は、自然条件を生かして営まれており、水産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えている。		
--	--	--	--	--

小単元名	4. これからの食料生産とわたしたち			教科書のページ	上 p. 114～123
配当時数	5 時間	活動時期	9～10 月	学習指導要領の内容	(2) ア-(7) (ウ), イ-(7)

小単元の目標		我が国の農業や水産業における食料生産について、食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取り組みなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで食料生産の課題をとらえ、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとにこれからの農業などの発展について考えようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取り組みなどについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の課題を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解している。
	思考・判断・表現	①食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取り組みなどに着目して、問いを見出し、食料生産の課題について考え表現している。 ②食料自給率と食生活の変化を関連付けたり、食料生産について学習してきたことを総合したりして食料生産の課題について考え、学習したことをもとに、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業や水産業の発展について考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①これからの食料生産について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことをもとに、これからの農業などの発展について考えようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1) 日本の食料生産をめぐる課題				
・つかむ 食料生産の課題について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p. 114～115	1	①農業や水産業の学習をふり返り、どのような課題があったか話し合う。 ・米の生産量と消費量が減っていた。 ・水産業ではとれる魚が少なくなり、輸入しているものもあった。 ・農業も水産業も働く人が減っていた。 ②日本と主な国の食料自給率について調べ、疑問に思うことを話し合い、学習問題をつくる。 ・日本の食料の多くは輸入にたよっている。 ・小麦や大豆のほとんどを輸入している。 ・1970 年に比べ、自給率	◆教科書やノートをもとに、農業や水産業の学習をふり返らせる。 ◆自給率の変化に着目させて、疑問に思うことを発表させる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「食料自給率や輸入などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

		が約 3 分の 2 に減ったのはなぜだろう。 日本の食料生産にはどのような課題があるのだろう。		
		学習問題 日本の食料生産にはどのような課題があり、これからの食料生産をどのように進めたらよいのでしょうか。		
(2)わたしたちの食生活の変化と食料生産				
・調べる 食生活の変化は食料生産にどのようないきょうをあたえているのでしょうか。 p. 116～117	1	①p. 116 の写真を見ながら、毎日の食生活について話し合う。 - わたしは朝はパンを食べることが多い。 - ハンバーグやカレーなど、肉を使った食べ物が多い。 ②食生活の変化や食料品別の輸入量の変化を資料で調べる。 1960 年度と比べると米の消費量が減り、肉やその加工品、乳製品などの畜産物が増えている。 - 増えている食料品の多くは輸入に頼っている。 ③調べたことを関連付け、食生活の変化が食料生産や食料の確保にどのような影響を与えているか考え、話し合う。 - 食生活が変化し、小麦や乳製品などがたくさん輸入されるようになった。 - 食生活は豊かになったが、自給率の高い米の消費が減り、輸入食料品が増え、自給率が下がっている。 - 食料廃棄の多さも問題になっている。 食生活が西洋風に変化し、我が国の食生活は多くを輸入にたよっている。一方で大量に食料が廃棄されている現実もある。	◆家庭での食生活や給食のメニューなどから考えさせるようにする。 ◆いつごろからどのような食料品が増えているか考えさせる。 ◆調べる段階で、二つの資料（p. 117 のグラフ）からわかったことを関連付け、食生活の変化とその影響を考えさせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「食生活が変化してきたことや、それにもなった食料生産の課題について考え表現しているか」を評価する。

(3) 食の安全・安心への取り組み				
・調べる 食の安全・安心に対する取り組みは、どのように行われているのでしょうか。 p. 118～119	1	①食の安全・安心に対する取り組みについて知っていること、輸入食品で問題になること等を話し合う。 ・生産者の顔が見える野菜がスーパーマーケットで売られている。 ・気候の影響により、輸入相手国で農産物が収穫できなかったら、輸入ができない。 ・どのような農薬が使われているか気になる。 ②スーパーマーケットの店長さんの話と検疫所で働く長さんの話をもとに、食の安全・安心のためにどのような取り組みがあるか調べる。 ・トレーサビリティ。 ・日本の法律に合格した食品を輸入する。 ・検疫所での検査。 ③調べたことをもとに、食の安全・安心に対する取り組みがどのように行われているか考え、話し合う。 ・トレーサビリティの取り組みや輸入食品の衛生管理が行われている。 ・しかし、輸入のための輸送では、たくさんの石油が使われている。 消費者の食の安全・安心への関心が高まり、スーパーマーケットなどではトレーサビリティの取り組み、検疫所では輸入食品の検査などの取り組みを行い、食の安全・安心の確保に努めている。	◆産地を表示した牛肉のパックの写真や食の安全に関する新聞記事（p. 118）、かんばつで枯れてしまったとうもろこしの写真（p. 119）を見せ、関心を高めさせる。 ◆安全・安心の確保のための工夫やしくみに着目させる。 ◆食料品の輸入のために多くの燃料が輸送に使われていることにも気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、食の安全・安心への取り組みについて理解しているか」を評価する。
(4) 食料を安定して確保する				
・調べる 食料を安定して確保し続けるためには、どのようなことが大切なのでしょう。 p. 120	1/2	①「産業別の人口のわりの変化」及び「土地利用の変化」のグラフから、食料の安定確保にとって課題になる	◆農業や水産業の学習と関連付けて考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、食料を安定して確

		ことを話し合う。 ・農業や林業，水産業で働く人が減っている。 ・畑や田の面積も減っている。 ②農業協同組合の後藤さんの話をもとに，食料を安定して確保するために大切なことを調べ，考えたことを話し合う。 ・国内の食料自給率を上げるために国産のものを食べることが大切。 ・自分の住んでいる地域でとれるものを食べることも大切。 多くの食料を輸入にたよる我が国は，食料を安定的に確保していくことが大切であり，その一つとして地産地消の取り組みがある。	◆地域での取り組みにも目を向け，これから大切だと思うことを考えさせる。	保するために，食料自給率を高めたり，地産地消の取り組みを進めたりすることが大切であることを理解しているか」を評価する。
--	--	--	--	--

(4) これからの食料生産について考える

・まとめる これからの食料生産について調べたことをもとに，学習問題に対する考えをまとめましょう。 p. 121	1/2	①これまでに調べたことを，カードに書いて黒板に貼り，分類する。 ・日本の食料生産がかかえる課題。 ・食の安全・安心の取り組み。 ・食料を安定して確保するために大切なこと。 ②分類したカードを見ながら，これからの食料生産で大切だと思うことを発表し合う。 ・日本の食料自給率を上げることが大切。 ・食料自給率が上がると，農業や水産業が活発になる。 ・地産地消の取り組みにも進んで参加することが大切。 ・日本は輸入食料品が多い。食の安全・安心にも気を付けることが大切。 ③話し合ったことをもとに，これからの日本の食料生産について大切に思うことを各自ノートにまとめる。	◆カードはグループごとに作成するなど工夫をする。また黒板に貼る際には，重複したものを重ねるなどする。 ◆我が国の食料生産・確保の現状をふまえ，これから大切だと思うことをノート	【知技②】 ノートの記述内容から，「食の安全・安心の確保，持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや，食料自給率を上げることが大切であることを理解しているか」を評価する。
--	-----	--	---	--

		食料の多くを輸入に依存する我が国では、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題になっており、食料自給率を上げることが大切である。	にまとめさせる。	
(5)食料生産の新たな取り組み				
・いかす 新しい食料生産のくふうをしようかいし合い、これからの食料生産について考えましょう。 p. 122～123	1	①p. 122～123 で紹介されている食料生産の新たな取り組みについて、グループ内で分担して調べ、発表し合う。 ・生産、加工、販売を自分たちで行う取り組み。 ・えさを工夫して畜産物の価値を高める取り組み。 ・持続可能な漁業を進める取り組み。 ・有機減農薬農法による米づくりの取り組み。 ②自分たちの県や市の農業や水産業の新たな取り組みについて、インターネット等を利用して調べる。 ③これからの食料生産に対する考えをノートに文章でまとめる。 ・消費者は、安さや安全だけでなく、価値のあるものや高級なものも求めている。 ・生産から販売までを行う取り組みがある。 ・消費者の願いに応えながら、新しい取り組みが行われている。 生産者は、消費者の声に応えながら、食料生産の発展に向けた新しい取り組みを進めている。	◆県や市の取り組みについては、利用可能なホームページや資料を教師が確認し、準備しておく。もし該当する取り組みがない場合は、ひとつ目の活動をインターネット等を使って詳しく調べるなど工夫する。 ◆生産者や消費者の立場から考えるように助言する。	【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「食料生産について学習してきたことを総合して、これからの農業などの発展について考え、適切に表現しているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記述内容から、「学習したことをもとに、これからの農業などの発展について考えようとしているか」を評価する。

単元名	3.わたしたちの生活と工業生産 (オリエンテーション)			教科書の ページ	下 p.2～3
配当時数	1 時間	活動時期	10 月	学習指導要 領の内容	(3)アイ

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)わたしたちの生活を取りまく工業製品				
・工業は、わたしたちの生活に、どのようにかかわっているのでしょうか。 p. 2～3	1	①身のまわりの工業製品について、気づいたことを話し合う。 ・家に、冷蔵庫や電子レンジなどの電化製品がある。 ・ノートやパソコンなど学校で使うものにも工業製品があるのではないかな。 ②これまでの学習をふり返ったり、身のまわりの工業製品について考えたりしながら、工業製品と生活との関わりについて話し合う。 ・3 年の昔の道具の学習では、洗濯機ができて便利になったことを学んだ。 ・身のまわりの工業製品は、どのようにつくられているのかな。	◆さまざまな工業製品が、あらゆる生活の場面を支える重要な役割を果たしていることに気づくようにする。 ◆過去と現在の比較から、工業製品がくらしの向上につながってきたことに気づくようにする。	[思判表] ノートの記述内容や発言内容から、「日頃の生活や、身のまわりの工業製品から問いを見出しているか」を評価する。
		めあて わたしたちの生活を支える工業製品は、どのようにしてつくられているのでしょうか。		

小単元名	1. 暮らしを支える工業生産			教科書のページ	下 p.4～9
配当時数	3 時間	活動時期	10 月	学習指導要領の内容	(3)ア-(7)(エ), イ-(7)

小単元の目標		我が国の工業生産について、工業の種類、工業のさかんな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで工業生産の概要をとらえ、工業生産と国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国ではさまざまな工業生産が行われていることや、国土には工業のさかんな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①工業の種類、工業のさかんな地域の分布、工業製品の改良などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業生産の概要を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、我が国ではさまざまな工業生産が行われていることや、国土には工業のさかんな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解している。
	思考・判断・表現	①工業の種類、工業のさかんな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、問いを見出し、工業生産の概要について考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①工業生産の概要について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)わたしたちの生活に役立つ工業製品				
・つかむ 身のまわりにある工業製品について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p. 4	1/2	①身のまわりの工業製品を持ち寄り、それぞれの特徴を考えながら分類する。 ・機械もあれば、食べ物もある。 ・金属、プラスチック、繊維などでできたものもある。 ・いろいろな種類の製品があるけれど、どこでつくっているのだろうか。 学習問題 わたしたちの生活を支えている工業製品は、どこでつくられているのでしょうか。 ②学習計画を立てる。 ・工業製品の種類や、どこで生産されているか調べたい。 ・日本ではどんな種類の工業がさかんなのか調べたい。 ・工業生産がさかんな地域は日本のどのあたり	◆工業製品を分類する学習の中で、それぞれの製品がどこでつくられたのだろうかという疑問をもたせていく。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「工業の種類に着目して、問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

		にあるのか調べたい。		
(1)日本各地の工場で作られている工業製品				
・調べる 身のまわりの工業製品は、どこで作られているのでしょうか。 p. 5	1/2	①分類した工業製品が作られた場所を調べて、発表し合うとともに、日本地図に印をつけてまとめる。 ・写真の船は、広島県呉市で作られた。 ・音楽室にあるピアノは、静岡県掛川市で作られた。 ・家で使っている掃除機は、茨城県日立市で作られた。 日本では、各地でさまざまな工業がさかんに営まれている。	◆それぞれの工業製品の箱やシールに記されている生産された場所に注目させたい。 ◆さまざまな工業製品が日本各地で生産されていることを児童が実感できるように考慮して、実物や写真を用意しておきたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の各地でさまざまな工業製品が作られていることについて理解しているか」を評価する。
(2)日本の工業生産の特色		★他教科との関連:算数		
・調べる 日本の工業生産には、どのような特色があるのでしょうか。 p. 6～7	1	①資料①と②の二つのグラフを読み取り、日本の工業生産について気づいたことを話し合う。 ・日本の工場はほとんどが中小工場だ。 ・大工場数は少ないが、工業生産額では半分以上を占めている。 ・1935年のグラフでは繊維工業の生産額の割合が大きいですが、現在は機械工業が中心。 ②資料③のグラフを読み取り、日本の工業生産のさかんな地域について話し合う。 ・工業がさかんな地域は、太平洋側の海沿いに広がっている。 ・最も生産額が高い中京工業地帯では、主に何がつくられているのだろう。 日本では、全国各地に工場が分布している。多くの工場が集まり、工業生産がさかんな地域は、工業地域や工業地帯とよばれている。	◆帯グラフの読み取りについては、「まなび方コーナー」を参照する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、大工場と中小工場の割合や工業地域の分布など、日本の工業生産の概要について理解しているか」を評価する。

(3)工業のさかんな地域の分布と特色			
・調べる 日本で工業がさかんな地域には、どのような特色があるのでしょうか。 p. 8	1/2	①p. 7資料③を復習しながら、「太平洋ベルト」とよばれる工業地域や工業地帯の広がりを意識する。 - 太平洋ベルトの工業生産額は、日本全体の2分の1以上を占める。 ②工業地域や工業地帯の相互のつながりや海外とのつながりにも発展させて考える。 - 工業のさかんな地域が海沿いに多いのは、材料や製品の輸送に便利だからではないか。 - 高速道路が全国に広がり、内陸でも工業がさかんな地域が増えてきた。 日本の工業のさかんな地域は、太平洋ベルトを中心に海沿いに多く分布している一方で、内陸部にも分布している。	◆工業生産に不可欠な原材料や製品の輸送・交通の重要性を考えさせるために、船や高速道路、海をはさんでの海外との結びつき、工場で働く人々(労働力)にも着目させたい。 【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、工業地域や工業地帯の広がりについて理解しているか」を評価する。
(3)ノートにまとめる			
・まとめる 日本の工業のさかんな地域の特色をまとめましょう。 p. 9	1/2	①日本の工業生産と工業のさかんな地域の特色について、わかったことや考えたことをノートにまとめ、話し合う。 <工業生産の特色> - 昔は繊維工業がさかんだったが、現在は機械工業の割合が多い。 - 工場の数はほとんどが中小工場だが、生産額では、半分以上を大工場が占めている。 <工業のさかんな地域> - 太平洋の海沿いに工業のさかんな地域が広がり、太平洋ベルトとよばれている。 - 高速道路の発達により、関東内陸工業地域など内陸部にも工業のさかんな地域がある。 日本は工業のさかんな国であり、さまざまな種類の工業が営まれている。また、日本では、太平洋ベルトをはじめ、全国各地に工業地域が分布している。	◆調べたことをこれまで学んだ「ことば」を使ってまとめるとともに、日本の工業の特色について自分の考えを表現させる。 【知技②】 ノートの記述内容から、「我が国ではさまざまな工業生産が行われていることや、工業のさかんな地域が広がっていることを理解しているか」を評価する。

小単元名	2. 自動車をつくる工業			教科書のページ	下 p.10～23
配当時数	7 時間	活動時期	10～11 月	学習指導要領の内容	(3)ア-(イ)(エ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の自動車生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで自動車生産に関わる人々の工夫や努力をとらえ、その働きを考え、表現することを通して、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するようさまざまな工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するようさまざまな工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解している。
	思考・判断・表現	①自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見出し、自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ②自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産に関わる人々の働きを考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①自動車生産について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)変わってきた自動車 ★他教科との関連：算数				
・つかむ わたしたちの生活や産業を支える自動車は、どのような地域でつくられているのでしょうか。 p. 10～11	1	①写真とグラフから、自動車の変化について、考えを発表し合う。 ・時代とともに自動車は変化している。 ・わたしたちの生活や要望によって、自動車は変わるのかな。 ・乗用車も 80%くらい普及している。 ②地図を見て気づいたことを発表する。 ・愛知県豊田市に自動車工場が多く、関連工場も集まっている。 ・どんなところで組み立てているのかな。 わたしたちの生活に欠かせない自動車は時代とともに変化してきた。それらは自動車工業のさかんな地域でつくられている。	◆国民生活や消費者の要望、時代とともに変化してきたことに気づかせる。 ◆地図から、豊田市を中心に組み立て工場と関連工場が集まっていることに気づかせ、どのような場所で自動車が生産されているか興味をもたせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「自動車の移り変わりに着目して、問いを見出しているか」を評価する。

(2)さかんな自動車工業				
・つかむ 日本の自動車工業がさかんな理由を考え、学習問題をつくり、学習計画を立てましょう。 p. 12～13	1	①写真とグラフから、日本の産業にとって自動車工業が重要であることを考える。 ・大きな工場だね。 ・日本の工業のうち機械工業の生産額が一番大きいね。 ・機械工業の中でも、半分近くが自動車工業だね。 ②「まなび方コーナー」を見て、学習計画を立てる。 ・どうやって生産されているのかな。 ・関連工場の役割はなんだろう。 ・時代にあった自動車はどうやって開発されるのかな。 学習問題 自動車づくりにたずさわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのようにふうや努力をしているのでしょうか。	◆写真に写る工場と周囲の家屋や自動車の大きさを比べさせ、工場の大きさをつかませる。また、円グラフから、我が国の工業における自動車工場の重要性を実感させる。 ◆まなび方コーナーを示し、学習計画を立てさせる。	【態度①】 ノートの記述内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
(3)自動車を組み立てる工場				
・調べる 組み立て工場で働く人々は、どのように自動車をつくっているのでしょうか。 p. 14～15	1	①写真から、自動車を組み立てる流れを知り、工夫を話し合う。 ・消費者の注文に合わせて、違う種類の自動車を一つの組み立てラインで組み立てている。 ・間違えないように指示ビラなどの工夫がある。 ・部品を余らせないようにする工夫がある。 ②工場の方の話を読み、組み立てについてまとめる。 ・ロボットや機械の特徴を生かして、素早くたくさんの自動車を生産している。 自動車は、組み立てラインにのせられ、さまざまな工程を経て完成する。	◆写真を黒板に貼るなどして組み立ての流れをつかませるとともに、組み立てにはさまざまな工夫があることをまとめる。 ◆自動車工場では、ロボットなどの産業機械の働きも加えて、たくさんの自動車を生産していることをまとめるようにする。	【知技①】 ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、組み立て工場のしくみや工夫について理解しているか」を評価する。
(4)自動車の部品をつくる工場				
・調べる 自動車の各部品は、どのようにつくられているのでしょうか。 p. 16～17	1	①図と写真から、自動車の部品をつくる工場の働きを発表する。 ・1台の自動車を生産するにはたくさんの部品が必要なんだね。	◆図から自動車を生産するにはたくさんの部品が必要であることを読み取らせ、部品はどのような	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、自動車の部品工場の様

		・部品は関連工場を組み立てられている。 ・組み立て工場のまわりにはたくさんの関連工場がある理由がわかる。 ②シート工場の方の話を読んだり、組み立て工場と関連工場のつながりの図を見たりして、組み立て工場の工夫と役割を話し合う。 ・シートを組み立てるにもたくさんの部品が必要なんだね。 ・シートを組み立てるための部品をつくる工場もある。 ・組み立て工場と部品工場が全体で一つの大きな工場になっている。 自動車は、組み立て工場と部品をつくる関連工場が協力して生産される。	に生産されているのか興味をもたせる。 ◆自動車を生産する部品の一つであるシートを作成するためにもたくさんの部品が必要であることから、組み立て工場と関連工場のつながりを実感的に理解させる。	子や関連工場と組み立て工場のつながりについて理解しているか」を評価する。
--	--	---	---	---

(5)世界とつながる自動車

・調べる 完成した自動車は、どのようにして世界じゅうの消費者にとどけられるのでしょうか。 p. 18～19	1	①写真と図から、生産された自動車はどのように消費者に届けられるのか発表する。 ・船やトラックで運ばれている。工場から遠い販売店や海外へは船で運ばれる。 ・船には一度に何千台もつめるんだね。 ②自動車会社の方の話から、海外生産について意見を述べあう。 ・海外生産は年々増えている。 ・現地の工場と日本の工場と交流して、高い品質を保っている。 ・現地で生産することでその国の産業を発展させるんだね。 生産された自動車はキャリアカーや船で国内や海外に輸送される。また、海外での現地生産がさかんになっている。	◆自動車は生産する工夫だけでなく、生産者に届けるための工夫もあることに気づかせる。 ◆日本の自動車会社は、海外にも販売していることをつかませるとともに、海外生産の伸長と利点を理解させる。	[知技①] ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、完成した自動車を世界中に届ける運輸や現地生産などの外国とのつながりについて理解しているか」を評価する。
---	---	--	---	---

(6)人々の願いに合わせた自動車開発

・調べる 新しい自動車は、どのように生み出されているのでしょうか。	1	①これからの時代に合わせた自動車について話し合う。	◆児童にこれから必要だと思う自動車を考えさ	[態度①] 発言内容から、「これまでの学習をふ
--	---	----------------------------------	------------------------------	---------------------------------------

p. 20～21		・環境にやさしい自動車が求められると思う。 ・事故が防げる自動車が大切だと思う。 ・車いすに乗ったまま移動できる車はどうか。 ②自動車開発をする方の話を読み、消費者や社会の要望に応える自動車開発についてまとめる。 ・自動車会社はどのような自動車が求められているのか常に考えているんだね。 自動車会社では、消費者の需要や社会の変化に対応して、よりよい製品を生み出している。	せ、自由に述べさせる。友だちの意見を参考にして、考えを修正させていく。 ◆自動車会社が開発した代表的な自動車を例に、これからも自動車は、時代とともに変化していくことをつかませる。	り返り、さらに調べるべきことを考え、人々の願いに合わせた自動車開発について調べる見通しをもっているか」を評価する。 【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「生活を支える自動車の生産について理解しているか」を評価する。
(7) 新聞にまとめる ★他教科との関連：国語				
・まとめる これまでの学習をふり返り、日本の自動車づくりのよさを新聞にまとめましょう。 p. 22～23	1	①これまでの学習をふり返り、自動車生産の工夫について意見を述べる。 ・組み立て工場では、ラインで作業をしたり、ロボットを使ったりとたくさんの工夫がありました。 ・自動車をつくるにはたくさんの部品が必要で、組み立て工場と関連工場が協力していました。 ・日本の自動車は海外でも販売されていました。 ・消費者や時代に合わせた自動車を開発していました。 ②教科書の例をもとに新聞をつくる。 自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するようさまざまな工夫や努力をして、工業を支えている。	◆自動車を生産するうえで工夫していることを述べさせ、黒板にまとめていく。 ◆児童一人一人が大切だと思ったことを見出しとしてまとめ、新聞をつくらせる。	【知技②】 発言や作成した新聞の内容から、「自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するようさまざまな工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 作成した新聞の内容から、「自動車生産とわたしたちの生活を関連付け、世界に広がる自動車生産を考え、適切に表現しているか」を評価する。

小単元名	3. 工業生産を支える輸送と貿易			教科書のページ	下 p.36～45
配当時数	5 時間	活動時期	11 月	学習指導要領の内容	(3)ア-(ウ)(エ), イ-(ウ)

小単元の目標		我が国の工業生産について、交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで貿易や運輸の様子をとらえ、それらの役割を考え、表現することを通して、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①交通網の広がり、外国との関わりなどについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、貿易や運輸の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解している。
	思考・判断・表現	①交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、問いを見出し、貿易や運輸の様子について考え表現している。 ②工業生産と貿易や運輸の働きを関連付けて貿易や運輸が工業生産に果たす役割を考え、適切に表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①工業生産における貿易や運輸について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)工業製品の輸送と日本の貿易				
・つかむ 日本の輸送や貿易について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p. 36～37	1	①自動車工業の学習をふり返り、輸送との関わりを話し合う。 ・部品は関連工場で作られ、組み立て工場に運ばれる。 ・自動車はトラックや船で運ばれる。 ・空輸される工業製品もあるのではないかな。 ② 工業に関わる貿易について話し合い、輸送との関連をもとに学習問題をつくる。 ・工業地帯にある港で輸出入が行われているようだ。 ・空港の貿易額も多い。 学習問題 輸送や貿易は、日本の工業生産をどのように支えているのでしょうか。	◆ 地図帳や地球儀、p. 36～37の写真などを活用し、何がどのような手段によって運ばれているのかに着目して、輸送や貿易と日本の工業生産との関わりを予想させる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「交通の広がりや外国との関わりなどに着目して、問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
(2)全国へ運ばれる工業製品				
・調べる 工場で作られた工業製品は、どのように運ばれているのでしょうか。 p. 38～39	1	①「京浜トラックターミナルのまわり」や「日本の主な交通もう」の図などから、工業生産における輸送手段を調	◆ p. 7「日本の工業生産の分布」をふり返りながら、交通網の広がりに着目して	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、工業

		べる。 ・トラックターミナルの周辺にはさまざまな交通手段がある。 ・工場で作られた工業製品は、さまざまな交通手段を組み合わせで運ばれる。 ②工業生産における輸送の役割を話し合う。 ・輸送する場所や量によって交通手段を使い分けたり組み合わせたりしている。 ・運輸は、各地に工業製品を運ぶなど、重要な役割を果たしている。 工業製品は、製品の種類や量、輸送する場所によってトラックや鉄道、船、飛行機などを使い分けながら各地に輸送されている。	運輸と工業生産との関わりを考えるようにさせる。	製品における運輸の働きや交通網の広がりについて理解しているか」を評価する。
(3)日本の輸入の特色				
・調べる 日本への輸入には、どのような特色があるのでしょうか。 p. 40～41	1	①「主な輸入品の輸入相手国」「輸入量と国内生産量のわりあい」などから、日本が輸入している品目と相手国を調べる。 ・オーストラリアやサウジアラビアをはじめ、世界中から輸入している。 ・石油や石炭、天然ガス、鉄鉱石など燃料や原料を輸入している。 ②「主な輸入品の取りあつかい額のわりあいの変化」をもとに、日本の輸入の特色を話し合う。 ・アジア地域で生産された、安くて品質のよい工業製品が輸入されている。 ・機械類の割合が高まっている。 日本は、工業生産に必要な燃料や原料だけでなく、国内ではつくれないものや国内よりも安くつくれる製品を輸入している。	◆時間的な変化があまりないものと大きく変化しているものに着目して輸入の特色を考えるようにさせる。 ◆「まなび方コーナー（グラフを比べる）」をもとに、種類ごとの割合の変化を比べさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の輸入の特色について理解しているか」を評価する。

(4)日本の輸出の特色				
・調べる 日本の輸出には、どのような特色があるのでしょうか。 p. 42～43	1	①「主な輸出品の輸出相手国」「輸出される機械類」などから日本が輸出している品目と相手国を調べる。 - 自動車，鉄鋼，集積回路など高い技術に支えられた製品が輸出されている。 - アメリカや中国をはじめとして世界中に輸出している。 ②「主な輸出品の取りあつかい額のわりあいの変化」をもとに，日本の輸出の特色を話し合う。 1970年代からは機械類が多くなった。 - 輸出製品は海外での生産に使われている。 - 現地生産も多くなっている。 日本は，輸入した原料をもとに，高い技術によって生産した製品を海外に輸出している。また，輸出するだけでなく，現地生産も増えている。	◆時間的な変化があまりないものと大きく変化しているものに着目して，輸出の特色を考えるようにさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から，「必要な情報を集め，読み取り，日本の輸出の特色について理解しているか」を評価する。
(5)これからの社会に向けて				
・調べる 原料や資源の多くを輸入している日本では，どのような取り組みが進んでいるのでしょうか。 p. 44	1/2	①「主な風力発電所などの分布」などから，原料や資源を輸入に頼っている状況での日本の取り組みを調べる。 - 再生可能エネルギーの開発が広がっている。 - 世界との結びつきを大切にする。 原料や資源の多くを輸入している日本は，再生可能エネルギーの開発をして輸入にばかり頼らない取り組みを進めたり，世界との良好な結びつきを大切にしたりする必要がある。	◆p. 43「主な輸出品の取りあつかい額のわりあいの変化」にみられる輸出額の増大が，原料や資源の輸入によってもたらされていることに着目して，日本の取り組みの価値を考えさせるようにする。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から，「日本が原料や資源の多くを輸入している現状をふまえた新たな取り組みについて考え表現しているか」を評価する。
(5)かるたにまとめる				
・まとめる 工業を支える運輸や貿易について，かるたにまとめましょう。 p. 45	1/2	①これまでの学習をふり返り，「運輸」「貿易」と「日本の工業生産」との関わりを話し合う。 資源が少ない日本は，	◆第2～4時の学習でまとめたことをふり返り，工業生産に果たす「運輸」「貿易」の働き	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から，「貿易や運輸は，原材料の確保や製品の販売などにお

		貿易で原材料を確保している。 ・運輸の働きが全国に広がっているから、輸入した原材料や生産した工業製品を各地で使うことができる。 ②工業生産における「運輸」「貿易」について重要だと思ったことをかゝるに表現する。 ・(例)「貿易で 材料・製品 支え合い」…日本は原材料を輸入し、製品を輸出することで工業生産が成り立っている。 運輸や貿易は、日本の工業生産に必要な原材料を確保したり工業製品を各地に届けたりするなど、工業生産にとって重要な役割を果たしている。	に着目して、話し合うようにさせる。 ◆「日本の工業生産を支える」という観点から、自分が重要だと感じたことを書かせる。	いて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「工業生産と貿易や運輸の働きを関連付けて、貿易や運輸が工業生産に果たす役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。
--	--	--	--	--

小単元名	4. これからの工業生産とわたしたち			教科書のページ	下 p.46～55
配当時数	5 時間	活動時期	11～12 月	学習指導要領の内容	(3)ア-(7)(エ), イ-(7)

小単元の目標		我が国の工業生産について、伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで工業生産の課題をとらえ、工業生産の発展と国民生活との関連を考え、表現することを通して、原材料や資源の多くを輸入している我が国の工業生産の現状をふまえ、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとにこれからの工業の発展について考えようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業生産の課題を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、原材料や資源の多くを輸入している我が国の工業生産の現状をふまえ、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解している。
	思考・判断・表現	①伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などに着目して、問いを見出し、工業生産の課題について考え表現している。 ②工業生産について学習してきたことを総合して工業生産の課題について考え、学習したことをもとに、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの工業の発展について考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①これからの工業生産について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことをもとに、これからの工業の発展について考えようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)日本の工業生産の特色				
・つかむ 日本の工業生産の特色について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p. 46～47	1	①「自動車工業」や「輸送と貿易」の学習、p. 46③のグラフなどをもとに、日本の工業の特色について話し合い、学習問題をつくる。 ・大きな工場で効率よく組み立てていた。 ・部品は関連工場で作られている。 ・繊維工業や食料品工業をはじめ中小工場の生産額が多い。 ・鯖江市はめがねづくりがさかんようだ。 ・中小工場には特色があるのではないか。	◆自動車工業の学習をふり返り、関連工場の役割を考える中で、大工場とは違った特色があることに気づけるようにする。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 日本の工業生産は、すぐれた技術をどのように生かし、発展していこうとしているのでしょうか。		

(2)昔から伝わる工業生産				
・調べる 北陸地方の工場では、昔から伝わる技術をどのように工業生産に生かしているのでしょうか。 p. 48～49	1	①「めがね協会の小松原さんの話」「伝統を生かした北陸の工業」などから北陸地方の工業生産を調べ、伝統的な技術をどのように生かしているのかを話し合う。 ・100年以上前、めがねづくりの技術が定着した。 ・めがね枠の国内生産の90%以上が福井県で、鯖江はその中心となる産地。 ・産地ブランドをつくっている。 ・高岡銅器や輪島塗など、専門的な優れた技術を職人が受け継いでいる。 北陸地方の工場では、昔から伝わる技術を生かして産地ブランドとしたり伝統的な製品をつくったりして、他地域とは違った特色を出して生産している。	◆「めがねづくり」「高岡銅器」「輪島塗」に見られる、他地域には真似できない高い技術に着目して、「産地ブランド」の意味を考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、伝統を生かした工業の様子について理解しているか」を評価する。
(3)高い技術をほこる工場が集まる大田区				
・調べる ものづくりのまち大田区がほこる技術は、どのようなものなのでしょうか。 p. 50～51	1	①「北嶋さんの話」「田中さんの話」などから大田区での工業生産を調べ、他地域との違いについて話し合う。 ・北嶋さんたちは「しぼり」という技術でロケットの先端などをつくっている。 ・世界でも大田区でしかできない「オンリーワン」の製品をつくっている。 ・田中さんたちは、近くの工場どうしで協力して高い品質の製品をつくっている。 大田区の工場では、その工場ではできない技術を発揮したり工場どうしで技術をもち寄るなどの協力をしたりして、国内外で評価されるような製品をつくっている。	◆「北嶋さんの工場」や「田中さんたちの製品づくり」に見られる高い技術や技術の持ち寄りに着目して、「オンリーワン」の意味を考えさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、中小工場の優れた技術について理解しているか」を評価する。

(4)日本の工業生産の課題				
・調べる 日本の工業生産には、どのような課題があるのでしょうか。 p. 52～53	1	①「製造業で働く人口の変化」のグラフや「輸送と貿易」の学習などから、日本の工業生産の課題を話し合う。 ・原材料を輸入に頼っているので、資源の確保を考える必要がある。 ・製造業の人口が減っていて、国内生産ができなくなるのではないかな。 ・輸入品によって国産品に影響が出てしまう。 ②写真資料などから、課題に対する取り組みを調べる。 ・人口減少の中、ロボットが開発されている。 ・環境への配慮や品質の高い製品を海外に輸出している。 ・持続可能な社会に向けた工業生産が求められている。 日本の工業生産には、資源の確保や人口減少、国内生産の圧迫などの課題があり、これらに対して新しい技術やしくみを発展させていくことが求められている。	◆「資源確保」「人口減少」「環境への配慮」に着目して、新たな取り組みが持続可能な社会づくりにつながっていることに気づかせるようにする。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに日本の工業生産の課題について考え表現しているか」を評価する。
(5)話し合ってノートにまとめる				
・まとめる 日本の工業生産についての学習をふり返り、これからの工業生産についてまとめましょう。 p. 54	1/2	①これまでの学習をふり返って、これからの工業生産に必要なことを話し合い、学習問題について考えたことをノートに書く。 ・(例) 日本の工業は高い技術があるので、困っている人を助ける製品づくりが日本の工業の発展につながる。 日本の工業生産は、資源の確保や人口減少などの課題があるなか、高い技術や伝統的な技術を生かしたり、工場どうしが技術をもち寄って製品をつくったりするなど、国内外で評価される取り組みが行われている。	◆「産地ブランド」「持続可能な社会」などが示す意味についてふり返りながら、日本の工業生産の発展について考えさせるようにする。	[知技②] ノートの記述内容から、「原材料や資源の多くを輸入している我が国の工業生産の現状をふまえ、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解しているか」を評価する。

(5)これからの工業生産に大切なこと				
・いかす これからの日本の工業生産のために、大切だと思ふことを話し合ひましょう。 p. 55	1/2	①これからの工業生産のために大切なことについて、ランキング形式で表現し話し合う。 ・(例)「製品づくりの資源を確保すること」が最も大切。資源を確保しないことには日本の工業生産は何も行うことができなくなる。 ・(例)「さまざまな人の生活を支える製品づくり」が最も大切。社会の課題を解決するような製品づくりによって信頼が高まる。 日本の工業生産がこれからも発展していくためには「資源確保」「高い技術」「環境への配慮」「多様なニーズ」「消費者目線」など、さまざまな視点から工業のあり方を考えていく必要がある。	◆日本が直面している課題に着目して、日本の工業生産の持続可能性について考えさせるようにする。	【思判表②】 ノートの記述内容から、「工業生産について学習してきたことを総合して、工業生産の課題について考え、適切に表現しているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記述内容から、「学習したことをもとに、これからの工業の発展について考えようとしているか」を評価する。

単元名	4.情報化した社会と産業の発展(オリエンテーション)			教科書のページ	下 p.56～57
配当時数	1 時間	活動時期	12 月	学習指導要領の内容	(4)アイ

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)わたしたちをとりまく情報				
・わたしたちは、どのような情報とどのようにかかわっているのでしょうか。 p. 56～57	1	①どのような情報をどのように得ているのか発表し合う。 ・他地域や外国のニュースはテレビやラジオ, 新聞で知る。 ・天気を知りたいときはインターネットを使うことが多い。 ・趣味のことについて知りたいときは雑誌を買うことが多い。 ②情報を得る手段と情報の内容との関わりを話し合う。 ・インターネットは外でも調べられる。 ・テレビは家族で一緒に見ることができ, 遠くの場所のこともすぐに知ることができる。	◆「まなび方コーナー」を活用し, 比較するための視点を意識して特徴を整理するようにする。	[思判表] ノートの記述内容や発言内容から,, 「さまざまなメディアの特徴を根拠に, 国民生活におけるメディアの使い方を考え表現しているか」を評価する。
		めあて わたしたちの生活の中で, 情報はどのような役わりを果たしているのでしょうか。		

小単元名	1. 情報産業とわたしたちの暮らし			教科書のページ	下 p.58～69
配当時数	6 時間	活動時期	12 月	学習指導要領の内容	(4)ア-(ア)(ウ), イ-(ア)

小単元の目標		放送などの情報産業で働く人々について、情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりして、まとめることで放送などの情報産業の様子をとらえ、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、放送などの情報産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとに情報の受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①放送などの情報産業で働く人々の情報を集め発信するまでの工夫や努力などについて聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、放送などの情報産業の様子を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、放送などの情報産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。
	思考・判断・表現	①放送などの情報産業で働く人々の情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、問いを見出し、放送などの情報産業の様子について考え表現している。 ②放送局などから発信される情報と自分たちの生活を関連付けて、放送などの産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことをもとに情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えたりして表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①放送などの産業と情報との関わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことをもとに、情報の受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)テレビから伝えられる情報				
・つかむ ニュース番組では、どのような情報が放送されているのでしょうか。 p. 58～59	1	①よく見るテレビ番組について発表し合う。 ・天気予報を見て、傘が必要か考える。 ・ニュース番組。 ②ニュース番組を視聴し、情報の種類や放送内容について話し合う。 ・全国各地のさまざまな出来事その日のうちに放送されている。 ・外国のことも放送されている。	◆地図帳や地球儀などを活用し、ニュース番組で取り上げられた場所に目し、放送内容を調べるようにする。	【知技①】 ノートの記述内容から、「必要な情報を読みとり、ニュース番組の内容や特徴について理解しているか」を評価する。

		ニュース番組では全国や世界の出来事，天気予報などの情報が，その日のうちに放送されている。		
(2)ニュース番組をつくる現場				
・つかむ 番組をつくる放送局について，疑問を出し合って学習問題をつくり，学習計画を立てましょう。 p. 60～61	1	①ニュース番組の放送について疑問を出し合い学習問題をつくる。 ・どのように情報を集めているのか。 ・出来事をどのように選んでいるのか。	◆第1時で調べたニュース番組について，調べたことをふり返り，疑問を出し合うようにさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から，「情報の集め方や伝え方に着目して問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から，「予想や学習計画を立て，学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 放送局の人々は，どのようにしてわたしたちに情報をとどけているのでしょうか。		
		②予想を出し合い，学習計画を立てる。 <調べること> ・どのようにして情報を集めているのか。 ・集めた情報をどのようにして伝えているのか。 ・番組を見る人は，どのように情報を活用するとよいか。	◆予想を「情報収集」「情報発信」「情報の影響」に分類して板書し，学習計画に整理する。	
(3)ニュース番組をつくるための情報収集				
・調べる 放送局は，1本のニュース番組をつくるために，どのように情報を集めているのでしょうか。 p. 62～63	1	①放送局のホームページや「ニュース番組をつくる佐藤さんの話」などから情報の集め方を調べ，工夫や努力を話し合う。 ・多くの時間と人で番組はつくられている。 ・正確で詳しい情報を得るようにしている。 ・人権や公平，公正さなどに配慮し，見る人が求める情報を考えている。 放送局は，1本のニュース番組をつくるために，正確さや詳しくさ，人権や公平，公正さを考えつつ，見る人が求める情報となるように工夫している。	◆「多くの人で取材をすること」や「情報の正確さや詳しくさを確認すること」に着目して，情報を集めたり選んだりする目的を考えさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容から，「放送局では，ニュース番組をつくるためにさまざまなことを考えて情報を集めていることを理解しているか」を評価する。
(4)集めた情報を番組にしてとどける				
・調べる 放送局は，集めた情報をどのようにまとめ，ニュース番組にして放送しているのでしょうか。	1	①「映像を編集する武山さんの話」「アナウンサーの高畑さんの話」「ニュース番組編集長の金子さんの話」などから	◆編集長が「番組の進行を確認していること」「情報の順番をその場で判断してい	[知技①] ノートの記述内容から，「放送局では，さまざまなことを考えて伝え方

p. 64～65		ニュース番組の放送のしかたについて調べ、工夫や努力を話し合う。 - 映像の中でいちばん大切なところや見る人が求めているものを考えている。 - 常に、どの情報を放送するのかをその場で判断している。 放送局は、番組を見る人が求めている情報を選ぶとともに、見る人が情報を役立てられるように伝え方を工夫して放送している。	ること」に着目して、情報を選んで放送していることを考えさせるようにする。	を工夫していることを理解しているか」を評価する。
(5)情報を上手に生かす				
・調べる テレビ放送では、どのような情報が放送され、どのようなえいきょうがあるのでしょうか。 p. 66～67	1	①テレビ番組の種類や「熊本地震のボランティア活動」、「放送局編集長の林さんの話」などから放送された情報の活用や影響を調べ、人々と情報との関わりについて話し合う。 - 被災地のニュースでボランティアが集まった。 - 送り手の考えによって内容が変わる。 - 受け手の立場になって考えて放送している。 テレビなどの情報は、人々の行動を決めるきっかけとなったり、報道被害や社会の混乱を起こしたりすることがある。	◆情報の受け手がどのような影響を受けるのかを「よさ」「問題点」の視点で話し合い、情報との関わり方を考えさせるようにする。	【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「放送局の工夫や努力、情報発信の影響について考え、適切に表現しているか」を評価する。
(6)フローチャートにまとめて話し合う				
・まとめる 放送局がわたしたちに情報をとどけるまでの働きをフローチャートにまとめ、話し合いましょう。 p. 68～69	1	①学習したことをフローチャートにまとめる。 - 正確さや詳しさ、人権や公平、公正さを考えつつ、見る人が求める情報となるように工夫して情報を集めている。 - 見る人が情報を役立てられるように工夫して放送している。 - 情報は、人々の行動を決めるきっかけとなったり、社会の混乱を起こしたりするので、影響を考える	◆第3～5時の学習でまとめたことをふり返り、放送局で働く人々と国民生活との関わりに着目して、フローチャートに書き込むようにさせる。	【知技②】 ノートの記述内容やワークシートの内容から、「放送局から発信される情報の役割や影響について理解しているか」を評価する。

		ことなどが必要。 ②情報について話し合い、自分の考えをノートにまとめる。 ・役立つ情報を得ることができるが、社会の混乱を引き起こすこともあるので、しっかりと情報の影響を考えて行動したい。 放送局の人々は、人々が求めている情報を選ぶとともに、見る人が情報を役立てられるように伝え方を工夫して放送している。情報には、人々の行動を決めるきっかけとなったり、報道被害や社会の混乱を起こしたりするなど大きな影響がある。	◆放送局の人々の工夫や努力、国民生活への影響などをふまえながら、国民の一人として必要なことを考えさせようにする。	【態度②】 ノートの記述内容から、「学習したことをもとに、情報について、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えようとしているか」を評価する。
--	--	---	---	--

小単元名	2. 情報を生かす産業			教科書のページ	下 p.74～83
配当時数	5 時間	活動時期	1 月	学習指導要領の内容	(4)ア-(イ)(ウ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の産業と情報との関わりについて、情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりして、まとめることで産業における情報活用の現状をとらえ、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を多角的に考え、表現することを通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、さまざまな産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①情報の種類、情報の活用のしかたなどについて、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、産業における情報活用の現状を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、さまざまな産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。
	思考・判断・表現	①情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、問いを見出し、産業における情報活用の現状について考え表現している。 ②情報を活用した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、学習したことをもとに産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①大量の情報や情報通信技術の活用について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)くらしを支える産業と情報の活用				
・つかむ くらしを支える産業の情報の生かし方について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p. 74～75	1	①くらしを支える産業では、情報をどのように活用しているか話し合う。 ・電車やバスなど、人を運ぶ運輸の仕事では、ICカードなどを利用している。 ・農業用水をスマートフォンで管理している。 ②販売の仕事ではどのように情報を活用しているか、写真資料を参考に話し合う。 ・レジでは、バーコードを機械で読み込むと値段が表示されるしくみになっている。 ・ポイントカードで支払	◆農業や水産業、工業ではどのように情報を活用していたかふり返らせる。 ◆教科書p. 75の写真を見ながら、買い物経験を通じて知っていることなどを発表させる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、問いを見出しているか」を評価する。

		いもできる。 ③話し合ったことをもとに疑問に思うことを出し合い、学習問題をつくる。 ・いつも品物がそろっているのは、情報の活用と関係があるのかな。 ・ポイントカードは、どのように利用されているのだろう。		【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 はん売の仕事をするコンビニエンスストアでは、どのような情報を何のために活用しているのでしょうか。		

(2)情報を活用してはん売する

・調べる コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用してはん売の仕事をしているのでしょうか。 p. 76～77	1	①コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用しているか話し合い、p. 76～77の資料をもとに調べる。 ・いつどんな商品が売れたか本部に情報が送られている。 ・店では、翌日の天気や地域の行事などの情報も活用して商品を発注している。 ・ポイントカードで買い物をすると、性別や年齢などの情報も本部に送られる。 ・本部では、集めた情報を使って、新しい商品の開発を行っている。 ②コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用しているか考え話し合う。 ・コンビニエンスストアの情報は、本部に送られ、大量の情報になっている。 ・本部では、買った人の情報も集め、新商品の開発に生かしている。 販売の仕事をするコンビニエンスストアでは、商品の販売に情報を生かしたり、大量の情報を活用して商品の開発を行ったりしている。	◆コンビニエンスストアと本部の関係に着目して調べさせる。 ◆会員カードや電子マネーを申し込むときは、個人情報があるように守られ、利用されるのかを確かめることが大切であることを知らせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、コンビニエンスストアの商品の販売に生かす情報活用のしかたについて理解しているか」を評価する。
---	---	--	--	---

(3)情報を生かしてものを運ぶ

・調べる はん売の仕事では、商品を運ぶために情報をどのように活用している	1	①コンビニエンスストアに商品が運ばれるときにどのように情報が活	◆p. 79資料③は、買い物に行きづらい方々がイン	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、
---	---	--	----------------------------------	--

のでしょうか。 p. 78～79	用されているか話し合い、p. 78資料①、②をもとに調べる。 ・店からタブレットを使って本部や工場に情報が送られている。 ・本部ではトラックの位置がわかり、災害の時は本部から指示がでせるようになっている。 ②人々の願いに応えるための情報を生かした工夫をp. 79 ③ ④の資料などから調べる。 ・お年寄りや子育て中の人などは、インターネットを利用して商品をお店から届けてもらうこともできる。 ③販売の仕事では、商品を運ぶために情報をどのように活用しているか考え、話し合う。 ・店から情報が本部や工場に送られ、商品が届けられている。 ・お年寄りや子育て中の人などにも、情報を活用して商品が届けられるしくみがある。 販売の仕事をするコンビニエンスストアでは、商品の配送にも情報が生かされ、それは地域の人々の安全・安心を確保する取り組みにもつながっている。	ターネット等を利用して商品を送り届けてもらうしくみである。人々の願いに応えるための情報活用としてとらえさせたい。 ◆GPSを利用してトラックの位置を把握することで、災害時にも備えていることに着目させる。	「必要な情報を集め、読み取り、コンビニエンスストアの商品を運ぶ際等の情報活用のしかたについて理解しているか」を評価する。
(4)情報通信技術の活用によるサービスの広がり			
・調べる はん売の仕事では、情報通信技術を活用し、どのようにサービスを広げているのでしょうか。 p. 80～81	1 ①コンビニエンスストアでは、情報通信技術がどのように活用されているのか話し合い、p. 81資料③などから調べる。 ・コンサートやスポーツの試合のチケットなどが買える。 ・市役所などで発行する証明書もとることができるものがある。 ②販売の仕事では、情報通信技術を活用し、どのようにサービスを広げているのか考え、話し合う。	◆情報通信技術を活用したサービスを受けた経験を話し合うとともに、コピー機でどのようなことができるか調べさせる。 ◆p. 81の年表をもとに、情報通信技術の活用によってコンビニエンスストアがサービスを広げて	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、コンビニエンスストアの情報通信技術の活用によるサービスの広がりについて理解しているか」を評価する。

		・店の商品を買うだけでなく、情報通信機器を使って、いろいろなサービスを受けられる。 ・情報通信機器を使って、ほかの産業ともつながることで、わたしたちの生活は便利になっている。 販売の仕事をするコンビニエンスストアでは、情報通信技術を活用し、ほかの産業ともつながりながらサービスの幅を広げている。	いること、わたしたちの生活も便利になっていることを考えさせる。	
(5)関係図にまとめる				
・まとめる はん売の仕事をするコンビニエンスストアでの情報活用について、関係図にまとめましょう。 p. 82～83	1	①学習をふり返り、コンビニエンスストアがどのように情報を活用しているか話し合う。 ・店で売れた商品や買ったお客さんの情報などを集めて、新しい商品を開発していた。 ・カーナビゲーションを活用して、トラックの位置がいつでもわかるしくみになっていた。 ・情報通信技術を活用して、ほかの産業ともつながってサービスを広げている。 ②コンビニエンスストアの情報活用について、関係図にまとめ、発表し合う。 ・集めた情報を販売の仕事に生かす工夫と、情報通信技術を生かしてほかの産業とつながり、サービスを広げる工夫があった。 ・情報を活用することで販売の仕事が発展し、わたしたちの生活も便利になっている。 大量の情報や情報通信技術などの活用は、我が国のさまざまな産業を発展させ、国民生活を向上させている。	◆各自のノートをもとに、どのように情報を活用していたか話し合わせる。 ◆「集めた大量の情報の活用」と「情報通信技術の活用」という面があることを考えさせたい。 ◆関係図は、p. 83を参考にワークシート形式にしてもよい。	【知技②】 ノートの記述や関係図の内容から、「調べたことをまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、販売業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述や関係図の内容から、「情報を活用した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。

小単元名	3. 情報を生かすわたしたち			教科書のページ	下 p.90～97
配当時数	4 時間	活動時期	1 月	学習指導要領の内容	(4)ア-(イ)(ウ), イ-(イ)

小単元の目標		情報活用のあり方について、情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、各種の資料で調べ、まとめることで情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたをとらえ、情報が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①情報の種類、情報の活用のしかたなどについて、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたを理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解している。
	思考・判断・表現	①情報の使い方や情報活用に関連して起きている問題などに着目して、問いを見出し、情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたについて考え表現している。 ②学習してきたことを総合して、情報活用のあり方について考え、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①情報活用のあり方について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことをもとに、多角的に考えて、情報化の進展に伴う国民生活における良さや課題について考えようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)あふれる情報				
・つかむ 日ごろの情報の生かし方について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p. 90～91	1	①パソコンやスマートフォンの利用経験を話し合う。 ・メールを送ったり、電車の時刻を調べたりした。 ・インターネットを利用して調べ学習をした。 ②インターネットでできることや普及率を調べ、どのようなことが問題になるか話し合い、学習問題をつくる。 ・ルールやマナーを知らないで使うと、トラブルに巻き込まれることがある。	◆くらしの中で、情報がどのように活用されているか着目させる。 ◆普及率の増加とともに、さまざまな問題が起きていることに気づかせる。	[思判表①] 発言内容から、「情報の使い方や情報活用に関連して起きている問題などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 わたしたちは、情報とどのようにしてかかわっていったらよいのでしょうか。		

(2)情報活用のルールやマナー				
・調べる 情報を上手に活用するには、どのようなルールやマナーを心がければよいのでしょうか。 p. 92～93	1	①p. 92 ①～③のインターネットを利用した犯罪件数のグラフや犯罪を伝える新聞記事の資料などをもとに、その原因を話し合う。 ・パソコンや携帯電話が普及したことと関係があるのではないかな。 ・インターネットは、顔を合わせなくても情報のやり取りができるからではないかな。 ②インターネットで起こる問題を調べ、情報を上手に活用するには、どのようなルールやマナーを心がければよいか考え話し合う。 <問題の例> ・SNSに書き込んだ個人情報流出。 ・代金を払ったが商品が届かなかった。 <ルールやマナーの例> ・インターネットの情報の中には、有害なものや正しくないものもあることを理解して利用する。 ・インターネット上に流れた情報は止めることができない。 インターネットはたくさんの情報を送ったり得たりすることができるが、問題が起きることもあり、ルールやマナーを守った活用が大切である。	◆インターネットの普及による家庭や社会への影響に着目させる。 ◆p. 93の「インターネットの利用で起こる問題の例」をもとに具体的に調べさせる。 ◆受信・発信の際に守るべきルールやマナーを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、情報化の進展による課題や、情報活用のルールやマナーを理解しているか」を評価する。
(3)調べ学習とインターネット				
・調べる 情報を学習に生かすには、どのようにすればよいのでしょうか。 p. 94～95	1	①インターネットを利用した調べ学習で困ったり、迷ったりした経験を話し合う。 ・たくさんの情報があってどれを選べばよいかわかったことがある。 ・集めた情報をそのまま使ってよいかわからなかった。 ・メールで質問したいときはどうすればよいかわからなかった。 ②メディアリテラシーの意味を知り、情報を集	◆社会科やそのほかの教科の学習でインターネットを利用した際に困ったり迷ったりした経験を発表させる。 ◆メディアリテラシーを身に付け	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、情報の適切な活用のしかたについて理解しているか」を評価する。

		めるときや読み取るときに大切なことを考え、話し合う。 - 必要な情報かどうかを見極め、情報を選んで受け取る。 - 情報をそのまま書き写さず、自分の言葉に置き換えてまとめる。 - 発表の時は、参考にした資料や本の名前、作者、発行元、発行年などを書いておく。 学校での調べ学習の場面でもインターネットは効果を発揮するが、そのためには正しい使い方をする必要があり、メディアリテラシーを身に付けることが大切である。	ることが大切であることを理解させる。 ◆本の奥付（書名、作者名、発行元、発行年）を実際に見せるとよい。	
--	--	---	---	--

(4)情報の活用について話し合う

・まとめる 情報をどのように活用したらよいかまとめましょう。 p. 96	1/2	①情報の活用について学んできたことをふり返り、話し合う。 - 情報化した社会では情報がくらしや産業に役立っている。 - インターネットの情報は便利に活用できるが、すべて正しいとは限らない。 - インターネットによるいじめや犯罪が問題になっている。 ②情報をどのように活用し、生かしていったらよいか考え、話し合う。 - インターネットを正しく使うために、メディアリテラシーを身に付けることが大切。 - 情報の活用には、ルールやマナーが大切。 家庭や社会では日常的に情報が活用され、インターネットの活用は、便利さをもたらす反面、いじめや犯罪などの問題も起きており、メディアリテラシーを身に付け、ルールやマナーを守って活用することが大切である。	◆第4単元全体を俯瞰し、学んできたことを発表させる。 ◆情報化された社会で生きるという視点から、大切だと思うことを話し合い、ノートにまとめさせる。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめ、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習してきたことを総合して、情報活用のあり方について考え、適切に表現しているか」を評価する。
--	-----	---	---	---

(4)情報活用宣言				
・いかす わたしたちの情報 とのかかわり方を見直し、 情報活用宣言をつくりま しょう。 p. 97	1/2	①これまでの学習をもと に、自分たちの情報と の関わり方をふり返り、 注意しなければならない ことをグループで話し 合い、クイズをつくる。 ・個人情報を入力する 場合、相手を確認する ことや余計なことを書 かないことが大切。 ・SNSで発信する とき、友達のことを書 き込んだり、個人情 報を発信したりしない。 ②グループごとに作成 したクイズを相互に発 表し合い、情報を活用 するうえで大切だと思 うことを整理して「情 報活用宣言」を書く。 ・常に、個人情報の扱 いに注意する。 ・必要な情報はきち んと確かめて使う。 ・SNSでいたずら書 きや悪口を書いたり、 個人情報を載せたり しない。 情報の活用に当たっ ては、確かな情報を 収集・選択して使う こと、誤った情報や 個人情報等を発信し ないことが大切であ る。	◆各自のノートをも とに、どのように情 報を活用していたか 話し合わせる。	【態度②】 発言や情報活用宣 言の内容から、「学習 したことをもとに、 多角的に考えて、 情報化の進展に伴 う国民生活におけ る良さや課題につ いて考えようとし ているか」を評価 する。

単元名	5.わたしたちの生活と環境 (オリエンテーション)			教科書の ページ	下 p.98～99
配当時数	1 時間	活動時期	2 月	学習指導要 領の内容	(5)アイ

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)自然環境とかかわっていく大切さ				
・わたしたちの生活は、どのような自然環境に囲まれているのでしょうか。 p. 98～99	1	①わたしたちの生活と自然環境との関わりについて話し合う。 ・国土の学習で、地形や気候の特色を学習した。 ・世界自然遺産など日本には、美しい自然環境が残されているところが多くある。 ②資料を見ながら、豊かな自然環境や環境が悪化する問題について考える。 ・木を植えているのはどうしてだろう。 ・空がきれいになったのはどうしてだろう。 ・災害など自然の怖さにどのようにかかわっていくのがよいのだろう。	◆地図帳等も活用して国土について学習したことをふり返らせる。 ◆きれいな自然の写真、自然災害の写真等教科書の写真を比較させて、自分たちの生活を取り巻く国土の環境に気づかせる。	[思判表] 発言内容から、「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について問いを見出しているか」を評価する。
		めあて 国土の自然環境は、わたしたちの生活とどのようなかかわりがあるのでしょうか。		

小単元名	1. 自然災害を防ぐ			教科書のページ	下 p.100～111
配当時数	5 時間	活動時期	2 月	学習指導要領の内容	(5)ア-(7)(エ), イ-(7)

小単元の目標		我が国の国土の自然環境と国民生活について、災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで国土の自然災害の状況をとらえ、自然条件との関連を考え、表現することを通して、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などがさまざまな対策や事業を進めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。 ②調べたことを白地図や図表などにまとめ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などがさまざまな対策や事業を進めていることを理解している。
	思考・判断・表現	①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見出し、国土の自然災害の状況について考え表現している。 ②我が国で発生するさまざまな自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や県などの防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①自然災害について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)自然災害が多い日本の国土				
・つかむ 日本で起きる自然災害について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p. 100～103	1	①p. 102～103の日本の災害地図を見ながら、資料①～⑩の災害が起きた時期と場所を確認する。 ②同時に、p. 102の災害年表を見ながら、資料①～⑩の災害が起きた場所を確認する。 ・地震や津波はどのようなところで起きるのかな。 ・高い土地や低い土地、あたたかい土地や寒い土地など、日本のさまざまな地形や気候の地域について学んできたから、自然災害も地形や気候と関係があると思う。 ・自然災害に対して、国や都道府県では、どのような防災の取り組みを行っているのかな。	◆日本のどこで、どのような自然災害が起きているのかを資料①～⑩を見ながらとらえられるようにする。 ◆自然災害の発生を地形や気候との関連で考えさせる。 ◆自然災害に対して、国や都道府県では、どのような防災の取り組みを行っているのかという相互の協力の視点からも考えるように助言する。	[思判表①] ノートの記述内容から、「災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

		学習問題 自然災害は地形や気候とどのようなかわりがあり，国や都道府県などでは，どのような防災の取り組みを行っているのでしょうか。		
(2)地震災害への取り組み				
・調べる 地震はどのようなところで起こり，被害を減らすためにどのような取り組みが行われているのでしょうか。 p. 104～105	1	①日本で地震が多いわけを，本文や資料[3]から読み取り，話し合う。 ・複数のプレートの出会う場所にあるから。 ②大地震に備えて，国ではどのような対策や備えをしているか，資料[4]～[7]やことば「緊急地震速報」などから，読み取って話し合う。 ・気象庁では，緊急地震速報を流して，大きな揺れが来る前に，自分の身を守るようにしています。 ・中央防災会議や国土交通省の災害対策本部では，地震の前触れや地震が起きたときの対策を話し合っています。 日本は複数のプレートが出会う場所があり，内陸にも断層が多く地震が多い。地震の前触れなどについて話し合い，実際に地震が起きたときの対応も国は検討を行っている。	◆地震が起きるしくみについて資料から考えさせる。 ◆大きな地震に備えて，国がどのような対策を行っているのかを調べるように助言する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から，「必要な情報を集め，読み取り，国土の自然災害の状況やその対策について理解しているか」を評価する。
(3)津波災害への取り組み				
・調べる 津波災害はどのようなときに起こり，被害を減らすためにどのような取り組みが行われているのでしょうか。 p. 106～107	1	①日本で津波が起きるわけを，本文や，資料[3]，[4]から読み取って話し合う。 ・プレートの出会う場所では大きなひずみがたまって地震が起きると津波が発生する。 ・津波は陸地に到達するとさらに高くなる。 ②大津波からの被害を減らすために，各都道府県ではどのような取り組みをしているのか，	◆津波の被害の広がり，資料[3]から読み取らせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から，「必要な情報を集め，読み取り，津波災害の被害を減らすための取り組みについて理解しているか」を評価する。

		資料[5]～[8]からわかったことを話し合う。 ・防潮堤や津波避難タワーを建設している。 ・防災訓練をしている。 ・「津波記念碑」が残されている。 ①昔から、津波がここまで来たという「津波記念碑」が残されているが、濱口梧陵のように津波の被害を減らそうと努力した人もいたことを、p. 107「村人を津波から救った濱口梧陵」からとらえる。 大津波からの被害を減らすために、各都道府県では、防潮堤や津波避難タワーを建設しているほか、防災訓練などを行っている。	◆歴史的な見方・考え方として、村人を津波から救った濱口梧陵のような人物の話題を取り上げて、昔から日本では津波からの被害を減らそうとする人の努力があったことを考えさせる。	
--	--	---	---	--

(4)風水害への取り組み

★他教科との関連：理科

・調べる 風水害はどのようなときに起こり、被害を減らすためにどのような取り組みが行われているのでしょうか。 p. 108～109	1	①日本では風水害の被害が大きくなる理由について、資料[1]、[2]と本文から考え、話し合う。 ・短時間に急な大雨が降ることがあると、水があふれる。 ②風水害からの被害を減らすために、各都道府県ではどのような取り組みをしているのか、資料[4]～[7]からわかったことを話し合う。 ・砂防ダム、地下放水路、河川防災ステーションなどをつくって、水防活動の拠点にしている。 ・ハザードマップを避難時に役立ててもらう。 日本は、つゆがあり台風がよく来る場所にあるため、風水害の被害が大きくなりがちである。そのため、砂防ダム、放水路、ハザードマップなどの多様な対策を国や都道府県が行っている。	◆砂防ダムや、放水路など、被害を減らすための取り組みや対策の意味をきちんと押さえるようにする。 ◆ハザードマップについても、その意味をきちんと話し合っ、自分がそれを使うことを想定させるようにしたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、風水害の災害が起きるしくみや、被害の大きさ、被害を減らすための取り組みについて理解しているか」を評価する。
--	---	--	---	---

(5)火山の噴火や大雪への取り組み				
・調べる 火山や大雪による被害を減らすために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 p. 110	1/2	①資料①～④から、火山や大雪への取り組みについてわかったことを話し合う。 - 火山の噴火に備えて、気象庁では常に観測している火山がある。 - 大雪に備えて、雪崩を防ぐ柵などを道路の脇につくっている。 火山の噴火に備えて、気象庁では常に観測を行っている。また、大雪に備えて雪崩を防ぐ柵などを道路の脇につくっている。		【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、火山の噴火や大雪の災害がもたらす被害の大きさ、被害を減らすための取り組みについて理解しているか」を評価する。
(5)ノートにまとめる				
・まとめる 自然災害と国土との関わりや、防災の取り組みについて学習したことをノートにまとめましょう。 p. 111	1/2	①「まとめる」ページの課題をノートに写して、わかったことを考えて書く。 - 大津波からの被害を減らすために、各都道府県では、防潮堤や津波避難タワーを建設しているほかに、防災訓練をしている。 - 日本は、つゆがあり台風がよく来るため風水害の被害が大きくなりがちである。だから、砂防ダム、放水路、ハザードマップなどの多様な対策を都道府県が行っている。 - 火山の噴火に備えて、気象庁では常に観測している。また、大雪に備えて雪崩を防ぐ柵などを道路の脇につくっている。 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生している。自然災害から国土を保全し国民生活を守るために、国や県などがさまざまな対策や事業を進めている。	◆「ことば」を生かしながら、調べてわかったことをノートにまとめるようにする。 ◆教科書には「(教科書の)空らん書きこんでみましょう」と書かれているため、書ける児童はそれでも構わない。	【知技②】 ノートの記述内容から、「調べたことをまとめ、自然災害と国土の自然条件との関連や、国や県などの対策や事業について理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容から、「我が国で発生するさまざまな自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や県の防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。

小単元名	2. わたしたちの生活と森林			教科書のページ	下 p.112～123
配当時数	6 時間	活動時期	2～3 月	学習指導要領の内容	(5)ア-(イ)(エ), イ-(イ)

小単元の目標		我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、森林資源の分布や働きなどに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで国土の環境をとらえ、森林資源が果たす役割を考え、表現することを通して、森林は、その育成や保護に従事している人々のさまざまな工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①森林資源の分布や働きなどについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の環境を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々のさまざまな工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。
	思考・判断・表現	①森林資源の分布や働きなどに着目して、問いを見出し、国土の環境について考え表現している。 ②我が国の国土における森林の分布と国民の生活舞台である国土の保全を関連付けて、森林資源が果たす役割を考えたり、学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①森林資源の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)日本の森林				
・つかむ 日本の森林は、どのようなになっているのでしょうか。 p. 112～113	1	①森林の様子の写真やグラフ資料から、日本には森林が多くあることをとらえる。 ・日本の総面積に対して約3分の2が森林になっている。世界各国と比べても森林の多い国である。 ・森林が少ないと土砂崩れがおきやすい。 森林は、日本の国土面積の約 3 分の 2 を占めている。森林は全国に広がっており、国土の保全などさまざまな働きがある。	◆写真資料と地図やグラフを比べて、森林の働きについて考えさせる。 ◆日本の土地利用の地図から、森林資源の分布に着目して、日本には森林が多いことに気づかせる。	[知技①] 発言内容から、「必要な情報を読み取り、日本の森林の広がりやその働きについて理解しているか」を評価する。
(2)森林との関わり				
・つかむ 森林とわたしたちのくらしの関わりを話し合っ て学習問題をつくり、	1	①森林の様子を写真やグラフで見て、気づいたことや森林にはどのよ	◆写真やグラフから森林には天然林のほかにも人	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、

学習計画を立てましょう。 p. 114～115		うな働きがあるか話し合う。 ・森林は天然林と人工林に分けることができ、天然林の方が面積が多い。 ・天然林と人工林で、働きに違いはあるのだろうか。 ・森林はどのような働きをしているのだろうか。 学習問題 森林にはどのような働きがあり、わたしたちの生活とどのようなかわりがあるのでしょうか。 ②学習問題について予想し、学習計画を立てる。 ・森林は、だれがどのように守っているのか。 ・防砂林などくらしを守る働きについて。 ・林業について。 ・木材など森林資源について。	工林があることに気づかせる。 ◆米づくりの学習で学んだ防砂林などの既習事項を想起させ、森林にはどんな働きがあるか予想させる。	「森林資源の分布や天然林・人工林の様子に着目して問いを見出しているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言から「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
(3)貴重な天然林・白神山地				
・調べる 白神山地には、どのような森林の働きがあるのでしょうか。 p. 116～117	1	①地図帳で白神山地の位置や広さなどについて調べ、写真資料をもとに山地の様子を具体的に調べる。 ・青森県から秋田県にかけて広がる、ぶなの天然林が広がる山地。 ・世界遺産にも登録されている。 ②森林の役割や天然林を守ることの大切さについて調べ、発表し合う。 ・動物たちが生きる場でもある。 ・森林ときれいな川を守るために努力している人々がいる。 世界遺産である白神山地のぶなの森の恵みは、観光資源、動植物のすみか、赤石川の源流資源として役立っている。その自然を守るためにさまざまな人々が働いている。	◆世界遺産に登録されるまでにどのようにして自然を守ってきたのか、教科書の資料からつかませる。 ◆赤石川の資料を読み取り、森林には多くの水分がしみこみ、豊かな自然環境をつくりだしているなど森林資源の働きに着目して、森林資源が果たす役割を考える。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、白神山地の天然林の働きについて理解しているか」を評価する。
(4)木材をつくり出す森林				
・調べる 林業で働く人は、どのように森林を利用しているのでしょうか。	1	①白神山地に近い秋田県の人工林について調べ、人々の工夫や努力	◆森林の木が木材になるまでの作業過程をノート	【知技①】 ノートの記述内容から、「必要な情報

p. 118～119		についてわかったことをノートにまとめる。 ・秋田杉は、主に住宅用の木材として使われている。 ・植えた木が大きく育ち、よい木材となるまでには長い年月がかかる。 ・間伐などの手入れをすることが大切である。 林業に従事する人々は何十年もかけて木を育てている。人々は、山の環境を守りながら林業を行っている。	にまとめるなどして、働く人の工夫や苦勞に気づかせる。 ◆グラフや資料から森林資源は国土保全につながっていること、林業で働く人々が減っていることなどについて考えさせるようにする。	を集め、読み取り、森林と林業の関わりについて理解しているか」を評価する。
(5)さまざまな森林の働き				
・調べる 森林には、どのような働きがあり、森林資源はどのように利用されているのでしょうか。 p. 120～121	1	①森林の働きやその大切さについて話し合い、木材の活用や自分たちの生活とのつながりについてまとめる。 ・森林は、生き物にとって大切な場所である。 ・秋田杉を使った伝統的工芸品もある。 ・防雪林は雪から鉄道を守っている。 森林には、防雪林や土砂崩れを防ぐなどわたしたちの生活を守ったり、水をたくわえたりする働きがある。わたしたちのまわりには、森林資源を生かしたさまざまな木材製品があり、生活を支えている。	◆森林の働きと利用についてさまざまな角度から調べ、わかったことを話し合い、木材や森林、また林業の未来について考えるようにする。 ◆4年生で学習した水源林の働きなども想起させ、森林の働き的重要性に気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、さまざまな森林の働きや森林資源の利用について理解しているか」を評価する。
(6)守っていききたい森林				
・まとめる 森林の働きについてまとめ、環境を守ることについて考えてみましょう。 p. 122～123	1	①これまで森林について学習してきたことをノートにまとめ、自分の考えを発表し合う。 ・森林には、資源としての働きや自然災害を減らす働きがある。 ・白神山地のような天然林を守っていききたい。 ・わたしたちが木を使った製品を積極的に使えば、人工林が増え、林業がさかんになるのではないか。 ②小単元をふり返り、森林を守っていくために自分たちにできることを話し合う。	◆「ことば」を活用して表現させることによって、これまでの学習で学んだことを生かせるようにする。 ◆国土の環境をとらえ、森林資源が果たす役割を考えて自分なら	[知技②] ノートの記述内容や発表の内容から、「調べたことをまとめ、その育成や保護に従事している人々のさまざまな工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。 [思判表②] ノートの記述内容や発表の内容から、「学習したことをもとに、森林資

		日本の国土には豊かな森林があり、その育成や保護に従事している人々のさまざまな工夫と努力により守られており、国土の保全や森林資源など重要な役割を果たしている。	どのようにして森林資源を守っていくか、発表できるようにする。	源を守るために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりしているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記述内容や発表の内容から、「学習したことをもとに、森林資源を守るために、自分たちが協力できることを考えようとしているか」を評価する。
--	--	---	---------------------------------------	---

小単元名	3. 環境を守るわたしたち			教科書のページ	下 p.124～133
配当時数	5 時間	活動時期	3 月	学習指導要領の内容	(5)ア-(ウ) (エ), イ-(ウ)

小単元の目標		我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで公害防止の取り組みをとらえ、その働きを考え、表現することを通して、関係機関や地域の人々のさまざまな努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。
小単元の観点別評価規準	知識・技能	①公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、公害防止の取り組みを理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、関係機関や地域の人々のさまざまな努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解している。
	思考・判断・表現	①公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、問いを見出し、国土の環境について考え表現している。 ②公害防止の取り組みと環境改善や人々の健康な生活を関連付けて、公害防止の取り組みの働きを考えたり、学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	①公害防止の取り組みについて、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることを考えようとしている。

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)豊かな水資源をもつ京都市				
・つかむ 鴨川の変化について話し合い、学習問題をつくりましょう。 p.124～125	1	①鴨川と京都市民との関わりを調べる。 ・鴨川の豊かな水が市民の生活やゆばづくりなどの産業を支えている。 ・現在は、いこいの場として親しまれている。 ②現在と過去の鴨川の様子を比べて、疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・なぜ汚れていたのか。 ・どのようにしてきれいにしたのか。 ・だれがきれいにしたのか。	◆鴨川は市民にとって多様な価値があることに気づかせる。 ◆「汚れた理由」や1970年以降に改善されていることに着目して考えさせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して問いを見出しているか」を評価する。

		学習問題 鴨川は、だれがどのようにしてきれいな川にしているのでしょうか。		【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
(2)生活が便利になる一方で				
・調べる なぜ鴨川はよごれていたのでしょうか。 p.126～127	1	①当時の新聞記事や「市役所の大原さんの話」、「公害にかかわる苦情・ちん情」（地図）などから、当時の社会の様子を調べ、汚れの原因について話し合う。 ・生活排水や工場排水によって汚れた。 ・産業の発展で生活が便利になる一方、環境を考へない人が多かった。 高度経済成長によって日本の産業が発展するなか、国民生活は便利になったが環境に対する国民の意識が低く公害が発生した。鴨川でも住民の意識が低く、川が汚れてしまった。	◆ 生活のしかたや生産のしかた、人々の環境の意識などが原因になっていること、それらは当時の日本の傾向であったことに着目して考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、鴨川における公害発生の原因について理解しているか」を評価する。
(3)美しい鴨川を取りもどすために				
・調べる 全国的に公害が広がったところ、京都市では、鴨川をきれいにするために、どのような取り組みが行われたのでしょうか。 p.128～129	1	①年表や「市役所の大原さんの話」、「友禅あらい職人の澁谷さんの話」などから、環境をよくするための取り組みについて調べ、話し合う。 ・国は法律を整え、県や市は、下水道を整えたり工場排水を規制したりした。 ・工場の人たちは県や市のルールに協力し、工場を移転したり排水で汚したりしないように工夫した。 全国的に公害が広がったところ国は法律などを定めた。京都市は、下水道の整備や工場排水を規制し、川を汚さないために工場などの協力をすすめた。	◆ 国や県・市などの行政によってしくみが整えられ、工場などがそれらに対してできることを協力していることに着目して考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、鴨川の環境改善の取り組みについて理解しているか」を評価する。

(4)取りもどした環境を守るために				
・調べる きれいになった鴨川を守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 p.130～131	1	①「鴨川を美しくする会の杉江さんの話」や「京都府鴨川条例」などから現在の取り組みを調べ、環境を維持する様子について話し合う。 ・市民が川に親しむイベントを行うことで、環境を守る気持ちをもつようにしている。 ・市民の活動によって府が条例をつくり、さらに環境が守られるようにしている。 きれいになった鴨川を守るために、住民たちが川に親しむイベントを行ったり清掃活動を行ったりして、人々の環境への意識を高める取り組みをしている。	◆きれいになった川で遊ぶ人がごみを出すようになったことに着目して、新たな課題を把握させる。 ◆市民自身が環境を守る取り組みをすることで、環境への意識を高めようとしていくことに着目して考えさせる。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「鴨川における新たな課題に着目して学習を見直し、市民団体の取り組みを調べようとしているか」を評価する。
(5)つながりを考えて話し合う				
・まとめる 鴨川の環境を守るための取り組みをそれぞれの立場でまとめ、話し合ひましょう。 p.132～133	1	①学習したことをふり返って、鴨川の環境を守る取り組みをそれぞれの立場でまとめる。 ・行政は、下水道を整備したり工場排水の規制を行ったりした。 ・工場は、川を汚さない工夫をして、府や市の取り組みに協力した。 ・市民は、人々が環境を守る意識を高められる工夫を行っている。 ②自分はだれの活動に協力できるか話し合う。 ・市民主催のイベントに協力できる。 ・府や市に対して、下水道を正しく使うことで、協力できる。 ③小単元をふり返る。 ・産業の発展や生活の向上の一方で、人々の行動で環境を悪化させてしまうことがある。一人一人が環境への意識をもって取り組むことが大切だ。	◆環境を守るために、それぞれの立場の人が、どのような役割を果たしているのかに着目して考えさせる。 ◆自分の活動は、どのような役割を果たせそうなのかを意識させる。 ◆「環境が悪化した原因」「環境を改善し、維持するために努力する人の姿」に着目してふり返るようにさせる。	[思判表②] まとめた内容から、「行政や工場、市民団体の取り組みを関連付けて、考えたことを表現しているか」を評価する。 [知技②] ノートの記述やワークシートの内容から、「調べたことをまとめ、行政や工場、市民の努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られたことや、健康な生活を守ることを継続させる大切さを理解しているか」を評価する。 [態度②] ノートの記述内容から、「学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちができることなどを考えようとしてい

		鴨川では、これまで市や工場、地域の人々などのさまざまな努力により、公害の防止や環境の改善が図られてきており、環境保全につながる継続的な取り組みや、健康な生活を守ることが大切である。		るか」を評価する。
--	--	---	--	------------------

本時のめあて	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
(1)ことなる立場から考えよう				
・ いかす 自然を守りながら、人が生活をしていくためには、どのようなことを大切にしなければならないのでしょうか。 p.138～139	1	①川をめぐる問題について、異なる二つの立場の意見をそれぞれ「よさ」「問題点」に分けて表にまとめ、自分の意見を書く。 <Aさんたちの意見> よさ - 川のマわりをコンクリートで整備すると、洪水になりにくい。災害の心配が減る。 - 親水公園を川のマわりに建設して、みんなの憩いの場にするができる。 問題点 - 川が環境が変わってしまう。 <Bさんたちの意見> よさ - 洪水の際の避難計画を考えることで、川の自然の姿をそのまま守ることができる。 問題点 - 災害が起こった際に、被害が大きくなる心配がある。 ②AさんたちとBさんたちの意見の違いから、自然に対する二つの考え方があることを整理し、自然を守りながら人々が生活していくためにはどのようなことが大切か、自分の考えを書く。	◆第5単元全体をふり振り返りながら、二つの立場の意見について考えさせる。 ◆二つの立場の意見を「問題点」「よさ」を整理させた上で、自分の考えを書かせるようにする。 ◆正解があるわけではないが、これまでの学習をふまえて根拠を明確にして自分の考えを書くように指導する。	【態度】 表やノートの記事内容から、「学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしているか」を評価する。 【思判表】 表やノートの記事内容から、「学習したことをもとに、国土の環境保全について自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして、適切に表現しているか」を評価する。